

聖徒の道

7

VOL. 10 No. 7



表紙のことは

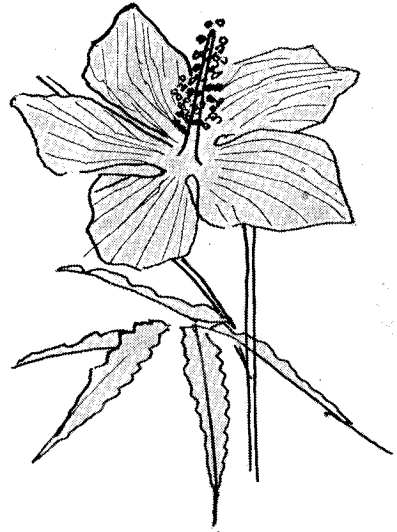
《ほていあおい》

—ミズアオイ科—

7月は梅雨があけていよいよ本格的な夏に入る時である。真夏の前に夕立や雷がときどきやってきてやがて晴れた夏空に変る。はてしなく続く夏空も明るい夕立のあとに流れる白雲も詩的である。夏空になると日射はいよいよ強く、人も草木も日中はうなだれる。しかし朝夕は涼しく、夕には螢が草叢に青い光を放ち河原には宵待草が咲く。どこやらにしっかりと濡れる露の涼しさも夏の夜の風景で、夜空にかがやく星も涼しげである。

「あわれ快よきは夏なり」 与謝野晶子

「ほていあおい」は一名ホテイソウとも呼ばれる。この葉柄がふくれてホテイ腹になっているからで、これは浮遊に便利のために葉柄の中に空気が入っているためである。月夜に川の面を静かに流れていく姿などはいかにも詩情にとんでいるもので、北原白秋の詩集「思い出」にもよまれている。原産地は亜熱帯アメリカ。



聖 徒 の 道 7 月 号 も く じ									
予言者のことば									
祈りとその光を放射する人									
デビッド・O・マッケイ									
伝道部長メッセージ									
アドニー・Y・小松									
質疑応答									
ジョセフ・フィルディング・スミス									
系図のページ									
キリスト教の理想									
地方部 支部だより									
家族のタテキスト									
本部だより									
図書案内									
	31	33	26	15	10	8	6	2	



梅雨あければ

本格的な夏

ギラギラ照りつける太陽のもとで、今日も伝道活動は続く。

仲夏、真夏、酷暑、極暑

火暑、灼熱、炎熱……

開拓者記念の催物は、夏の風物詩だ。

日焼した顔に勇気があふれ
荷馬車を押す腕にたくましい
気魄がほとばしる。

第二回神殿プログラムは

一九六七年の夏

勇気と忍耐力のいる一年になるだろう。

聖徒の道 10巻7号

1966年 7月1日

予言者のことば

祈りとその光を 放射する人

デビッド・O・マッケイ



祈りは宗教、特にキリスト教の根本原則であり、善のための力であります。祈る人は成長する人であります。彼は力ある人であります。

山上の垂訓でキリストは言いました。

あなたは祈る時、自分のへやにはいり、戸を閉じて、隠れた所においてになるあなたの父に祈りなさい。すると隠れたことを見ておられるあなたの父は、報いてくださるであらう。

(マタイ伝六・六)

この教会に於ける祈りの偉大な模範はニューヨーク州北部の聖なる森に於ける偉大な経験であります。

一四六年前、わずか十四才から十五才の間であつたジョセフ・スミスは、祈りに応えられた神から啓示を受けたと宣言しました。彼の宣言は簡単ではありましたが確実であり、人々がその真実を疑った時、彼は驚きました。彼にとって彼の主張は単なる事実の声明に過ぎなかつたのであります。この宣言の結果は、忽ちにして宗教界からの排斥となりました。間もなく彼は孤独な彼自身を見出したのであります。

当時の学問もなく哲学も知らない孤独!!

芸術及び科学の教育も受けてない孤独!!

指示する哲人も導く牧師もない孤独!!

彼はその栄えあるメッセージを以て、卒直に親切に彼らに、すすめたのでありました。彼らは、ののしりとあざけりを以て彼から顔をそむけたのでありました。

彼は一人ぼっちのようでありましたが彼の孤独は、モーセのシナイ山に於ける又キリストのオリヴ山に於ける孤独と同様でありました。主に於けると同様に予言者の教えは、人がつくったものでなく、直接、英智の根源である神から、もたらされたものであります。

末日聖徒イエス・キリスト教会は、へりくだった、心からなる、天との交通、祈りの土台の上に建てられているのであります。

祈りに主を求める人に少くとも四つの大きな祝福がもたらされるであります。

第一に感謝であります。彼らの心は、神が彼らに為されたことに對する感謝の念に充たされるであります。彼らは豊かに恵まれている自分自身を見出すでしょう。戸を閉めカーテンを下ろして、静かに神に向つてその助けを乞う若人は先ず、その健康に對し、友人に對し、愛する肉親に對し、福音に對し、実在する神の顯現に對し、心から感謝の念を捧げるべきであります。

祈りの二番目の祝福は導きであります。

私は朝に跪いて敬虔な祈りを捧げている。若い男が道にそれ、若い女が悪く行ったためしを知りません。私は末日聖徒が、心からひそかに神に向つて、どんな仲間に對するねたみや悪感を取除き給えと祈る時に、なお彼がその心に敵意を持っているとは考えられません。

三番目の祝福は確信であります。教育を受けようと努力している数千、万の学生に、若し彼らが學業に成功しようと望むなら、彼らの神を求むべきであると教えます。又世の中の最大なる先生がそばに立つて彼らを導くでしょうと教えましょう。学生が一度祈りによって、神に近づくことができると感じたら、彼はレッスンを習得できるであります。又話を準備し、人の前で何の恐れも失敗もなくそのメッセージを与えることの確信を受けるのであります。確信は心からなる祈りを通じてもたらされます。

四番目に彼は靈感を得るであります。私たちが神に近ずけて、光と導きを受け、私たちの心が神のみたまに照らされて興奮するであろうことは想像ではありません。ワシントンはその求め、リンカーンはそれを受けました。ジョセフ・スミスはそれを知っておりました。ただその眼を開けて見ようとし、その心に理解しようと努めるすべての人に靈感は顯現するのであります。

私たちは祈りを信じます。

私たちは祈りに応えて回復された福音を信じます。では私たちは、その生活に於て、また隣人や友人との交際に於て、その光を放射しようではありませんか。

救主は、私たちにその模範を示して下さっております。常に平静で落付いて、救主が通り過ぎると、すべての人が感ずる或何物かを放射しておりました。救主の表に触れた女はその例でありました。彼女は或何物かが彼から出て行ったのを感じました。それは神性な放射であります。

この世に住んでいるすべての人は、善にしる恵にしる、影響力を作用しております。それは救主の言うことだけでなくまたなすことだけでもありません。それは救主の人となりであります。すべての人がその人となり放射しているのです。

すべての人は、その放射を受けるのです。救主はそれを意識していました。救主は一人一人の前に立った時、それを感じたのです。過去を持ったサマリヤの女にせよ。石で打たれねばならなかった女にせよ。或は彼女を石で打とうとした男たちにせよ、或は政治家であったニコデモにせよ、或は又癩患者の一人にせよ、すべて彼らが個々に放射している、その人となりを感じたのでした。そしてあなたも私も、その程度に応じて同様なのであります。それが私たちの人となりであり、

私たちが放射しているところのものは、私たちの周囲の人々に作用しているのです。

私たちは個々の人として、高貴な思いを持つべきであります。私たちは邪悪な考え、又は下劣な野望を持つようにするべきではありません。若しそうするなら私たちは、そのようなものを放射するでしょう。私たちが若し高貴な考えを持ち、高貴な抱負をすすめるなら、私たちが人に合った時、特に交際している時に、それらを放射しているのであります。

今日私たちは神権者として、教会の女性として、私たちの家庭が隣人に、協調愛、共同感、責任感、誠実さを放射できるようにする大きな責任があります。

末日聖徒の家庭に在っては決して誓い非難、怒り、ねたみまたは憎しみなどの言葉を発しないようにせねばなりません。

各人の心が持っているものがあなたです。肉体はあなたが住んでいる家に過ぎません。神よ私たちが力と落付きと愛と慈悲（愛のもう一つの表現）と思いやりと、人類に対する心からなる願いを放射するよう助け給え。

神よ、私たちが神権者として、また一教会員として神に対する信仰、人類に対する愛、すべての人に対する奉仕の念を放射するよう助け給え。



愛する兄弟姉妹のみなさま

アドニー・Y・小松伝道部長

私たちは今、二回目のハワイ神殿訪問を計画しております。私たちは、経済的に霊的にまた道徳的に資格のあるすべての会員に、あなたの支部長及び地方部長と密切に連絡してこの旅行の準備を進めるようにおすすめて致します。支部長及び地方部長はいろいろなあなた方を助け導いてくれるであります。

神殿推薦状の資格として私たちは、私たちの実生活に効果をもたらす二つの非常に大切なことを考慮しなければなりません。それは「価値」と「用意」であります。

私たちは毎日の日常生活を福音の原則に従って生活して価値ある者とならねばなりません。私たちは教会の標準を守らねばなりません。

あなた自身に次のような質問をして、あなたの生活がこれらの要求にかなっているかどうか見てごらん下さい。

- 一、私は道徳的清浄さに於て神殿に入る価値があるでしょうか？ この事は私たちが貞節の律法を守り、毎日、同僚に対し真実であることを意味します。
- 二、私は自分の一を完全に払っているでしょうか？
- 三、私は知恵の言葉を守っているでしょうか？
- 四、私は教会の職責を果し、聖餐式、神権会その他教会の集会に出席しているでしょうか？
- 五、私は安息日を潔く守っているでしょうか？

うか？
六、私は家族の祈りをしているでしょうか？

もしも私たちが、すべてこれらの事を実行しておれば教会の価値ある会員と見なされるでしょう。けれどもこれで神殿の資格に充分でしょうか？ その答えは、いいえ、であります。私たちはまた上記の要求を生涯を通じて守る責任を受入れる用意がなければなりません。

もしも私たちが、すべての律法及び誠めを瞬間的な困難にもかかわらず最後迄守り続ける決心をしたら、そこで始めて主の家に入る用意ができたと言えるのであります。

神殿に入る資格ある人に対する一つの大きな祝福は、神殿の結婚であります。そこで私は皆さん、すべてにこの大きな祝福のために準備しなさいとおすすめます。

次の記事はチャーチ・ニュースの社説に出たものであります。私は皆さんがよくこれを読んで考えるようにおすすめます。

神殿結婚の理由

これは末日聖徒イエス・キリスト教会によつて教えられている高められた結婚観であります。

よい家庭を建設することは、教会のすべての会員の宗教的な責任であります。しかしながらこの責任は、この家庭が死があなたを分つ迄、で終るのではなく

くて永遠に保存され育成されて行くものである限り、更に続けねばなりません。

結婚は神によって高きも低きもその身分の如何にかかわらずすべての人に命ぜられたものであります。この世にこれを禁じなければならぬような職業または風潮はありません。昔のまたは現代の啓示は、それを支持しております。

旧約聖書は結婚の標準を備えております。新約聖書も同様であります。聖文は、人がひとりであるのは良くない、と述べまた、主にあつては、男なしには女はないし、女なしには男はない、と説明しております。

他のすべてのことと同様に、神は事をなすのに御自身の方法を持っておられます。神はバプテスマの流儀と同様に結婚の流儀を持っておられます。バプテスマも結婚も共に福音の救いの儀式であります。

末日聖徒にとって神殿の結婚は極めて大切なものであります。それは主の道であります。マッケイ大管長はこの首題について、非常に効果的な説教をしました。

或時彼は言いました。
「神殿の結婚は根本的に人に訴えるものです。それは科学的に健全であり、その愛人を伴って神殿に行く、如何なる若人も、彼らを祭壇に導いた愛が永遠であるように彼らの結合も永遠であることを理解して行くべきでそこにぜんぜん疑問はないのであります。」

あなたは神殿で結婚する前に、潔い生活を送らねばなりません。若い女性、あなたはあなたが結婚しようとしている男性があなたに潔い肉体をもたらす確信を持ちます。あなた方はお互に生活の根源が汚されていない確信を持ちます。

要するに最も幸福な生活をしようとする若い男女は、至高者の神殿で執行される神の定めた儀式によく準備するでしょう。真の愛人たちは脆いて誓い合うのであります。お互に次のような確信を懷くでしょう。

第一に彼らの結婚生活は深く始められ、結合の祝福としてもたらされる子供たちは当然に潔い肉体を相続することを保証されております。

第二に彼らの宗教的観点は同一であることであります。お父さんとお母さんが教会の教義及び参加に異なった観点を持つておると子供を正しく育てることが困難になり悪化します。

第三に彼らの誓いは小さな誤解や、困難によって破壊されるようなものでなく永遠の結合の思想を以ってなされたものであることであります。

第四に神聖な神権によって神の面前でなされた誓約は他の如何なる誓いよりも強いことであります。

第五にこのようにして始められた結婚は、人間の最も神聖な属性、愛と共に永遠であること。

第六に家族の団結は害われることなく

永遠に続きます。

若い男女の皆さん、神があなた方を、汚れないように保ちあなた方が神の御前に、あなた方の配偶者を選ぶのを導かれるように祈りそして選ばれたら、あなた方は共に神殿に入るように生活し、若し神の御前で、あなたの生活に就て、問われたら、正直に「はい私たちは清潔です」と答られるように祝福し給いますように。

このような基礎の上に始められた結婚はこの生涯に於て或は永遠を通じて最も甘いと知られる幸福を、あなたにもたらすであります。

結婚は啓示の光の内に神性な印を押された制度であり如何なる人または国家といえども罰を受けることなくしてこの制度に不賛成を唱えることはできません。





死者に対する代理の儀式

解答者 十二使徒会会長

ジョセフ・フィデルディング・スミス長老

質 問

あなたの書かれた救いの教義(第二巻一六四頁)の中であなたは救主が復活する迄、死者に対する儀式は執行されなかったことを示す証拠が多くあると書いておられます。けれども私たちの討論で、クラスの中の或会員に死者に対する洗いや灌油の儀式はソロモンの神殿の中でも執行されたに相違ないと思っております。これは間違っているでしょうか、それとも昔ソロモンの神殿の中で、洗い、バプテスマ、灌油などの儀式が執行されたということが可能なことでしょうか？

答

ソロモンの神殿で死者のための福音の儀式が執行されていたということは旧約聖書のどこにも記されておりません。イスラエルの歴史に就いて書かれている旧約聖書またはモルモン経のどこにも、その時代に死者に対する儀式の執行されたようなことは書かれておりません。神の子が救いの準備を終えて死者の復活をもたらす迄は、死者のために執行された贖いと復活に就ての何如なる儀式または働らきもあり得なかったと結論することは、極めて、明白であり理論的であります。ですからソロモンの神殿の中の儀式は明らかに生きた者に限られておるので

あります。

救主がその働らきを終え、十字架の上の大きな犠牲を通して復活の鍵を得る迄は、バプテスマ、シーリングなど如何なる儀式にせよあり得なかつたのであります。

すべてそのような祝福は、贖主が彼の働らきを終へ、復活の鍵を得られる迄待たなければならなかつたのであります。これは真実であり、ソロモンの神殿またはどこでも執行された、すべての儀式は、生きた人に限られていたのであります。

救主が墓から起き出でてすぐ、弟子に語った次の言葉は極めて大切であります。わたしは、天においても地においても、いっさいの権威を授けられた。それゆえに、あなたがたは行つて、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によつて、彼らにバプテスマを施し、…… (マタイ伝二八・一八—一九)

ここに指摘されていることは、彼が復活する迄は、天に於ても地に於ても、共にすべての権威を受けていなかったこととであります。けれどもこの時から弟子たちは、彼の言葉をすべての人に宣言する権能を持ったのであります。更に、彼の神性な権威に基づく福音の儀式は、今や地の果迄、拡がり、只に地の果迄ばかりでなく、生ける者死せる者共に、すべての人のために執行されるようになったのであります。アビナダイは、道にそ

れたニーフアイ人たちによく言うことができました。

よるずの民が主の与えたもう救いを見る時と、あらゆる国民、あらゆる血族、あらゆる国語の民、あらゆる人々が心一つにして神の裁判は正しいと神の御前に告白する時がくる。

さて、将来起ることが今すでに起っているように話すと、もしもキリストがこの世に降臨したまわれないなら贖われることは決してない。

もしもキリストが墓の勝利を奪い死の苦痛をなくするために、死者の中からよみがえりたまわれないならば、または死の縄目を断ち切りたまわれないならば復活は決してない。

しかしながら、確かに復活があるから墓は勝つことができず、死の苦痛はキリストによつて除かれる。

キリストは世の光であつて世の生命である。まことにその光は、とこしえであつていつまでも薄らぐはずがなく、その生命は限りがなくてまたと死ぬはずがない。(モーサヤ書一六・一、六—九)

死者の救いのための大いなる仕事は、この時満ちた、神権時代に生きる人に任命されたということは厳に、神性な御意志によるものであります。救主が代理の救いの罪を聞く迄は死者のための仕事は執行されなかつたのであります。それは古代のイスラエルに於ては討論も実施されなかつた教義であります。私たちはソ

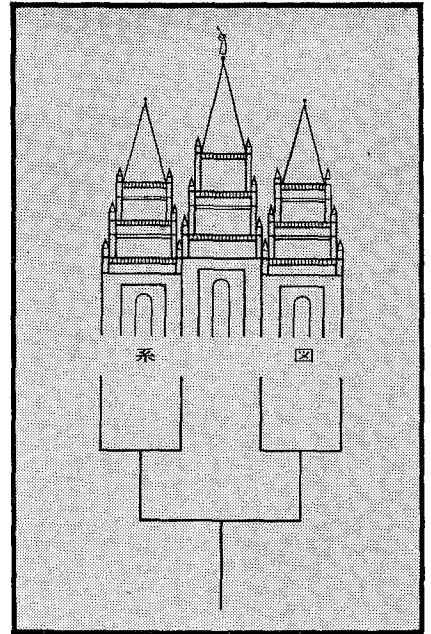
ロモンの神殿内の浸礼盤は少くとも贖主の復活迄、即ち救主が罪の償いをして、死に克つ迄は、ただ生ける者のためのバプテスマにのみ用いられていたと結論せざるを得ません。

残念なことに旧約聖書には殆ど述べられておりませんが死者に対する儀式は、決して執行されていなかったものであります。私の知る限りに於て、パウロの言葉が死者の救い及びその儀式に於て宣言している唯一の声明であります。コリントの聖徒たちへ宛てた第一の手紙の十五章二九節に次のように言っております。

そうでないとすれば、死者のために、バプテスマを受ける人々は、なぜそれをするのだろうか。もし死者が全くよみがえらないとすれば、なぜ人々が死者のためにバプテスマを受けるのか？

この言葉から私たちはパウロの時代に教会に於て死者のための救いの儀式は実施されていた教義であり、その神権時代に彼らのため、バプテスマが実施されていたことを知ります。時代が経つにつれて、この大いなる儀式及び死者のための祝福は、だんだんと、すたれて遂に忘れられてしまつたのであります。

私たちは贖主は彼らの許からたち去る前に任命された権能を通じて、生ける者と死せる者両方のために、満ち足りた神権の祝福と、福音の救いの儀式をイスラエル人に与えたと信じられる、すべての理由を持つていたのであります。



丸山周兵兄弟の先祖

現在東中央地方部第一副地方部長の職を務めている丸山周兵兄弟は、有名な費川豊彦先生の弟子で終戦後裸になって中国から帰って来た清水安三先生が建てられた原町にある桜美林大学の第二回目の卒業生であり、その上おじいさんの代からクリスチャンであったので当教会に入る前から既にクリスチャンの素養は充分にあったわけですが、主に導かれて一九五八年三月八日、バプテスマを受けてこの真の教会の会員となりました。彼は当教会の会員になるとすぐ、今迄プロテストタントの教会またはミッシェンスクールで習わなかった、先祖の救いの儀式に深い関心を示し、その時から彼の系図探求が始まったのであります。そして一ヶ月足らずで東京中央支部系図委員会の第二

副会長となり、その年の暮れには第一副会長となり翌五十九年の六月十四日からその翌六十年の六月二十六日、支部長に就任する迄中央支部系図委員会々長を務め、その間一年余り、日曜学校系図クラスの教師を務めまた伝道部系図委員会の仕事をも助けたのであります。昨年の六月十三日迄約五年間東京中央支部長を務めた後、現在の東中央地方第一副地方部長となられ、その間引き続き自己の先祖を探求すると同時に地方部の系図の指導に当っておられます。昨年ハワイ神殿訪問の際は多くのシートを提出されて、自ら多くの先祖の救いのために代理の儀式を受けて、救われた先祖と喜びを共にし、その後引き続き多くのシートを作成しておられます。

彼が文部省資料編纂所にある宗門帳の中に多くの先祖を見出した事は、彼の熱心な探求に対する神の祝福であり、信仰強い彼に対する聖霊の導きと福音を受入れた先祖の霊の呼びかけであったと思われます。昨年度大管長会のメッセージによって全教会に亘って三代七枚のファミリーグループ・シート提出プログラムが強力に推進され、本伝道部に在っては本年度に於てこのプログラムを全会員実施すべく指示されておる時、私たちは彼のような模範的日本人会員の系図探求者を手本として各自の任務である各自の先祖、三代七枚のシート作成に努め、主の御意志にそい、この日の本の地に光の栄

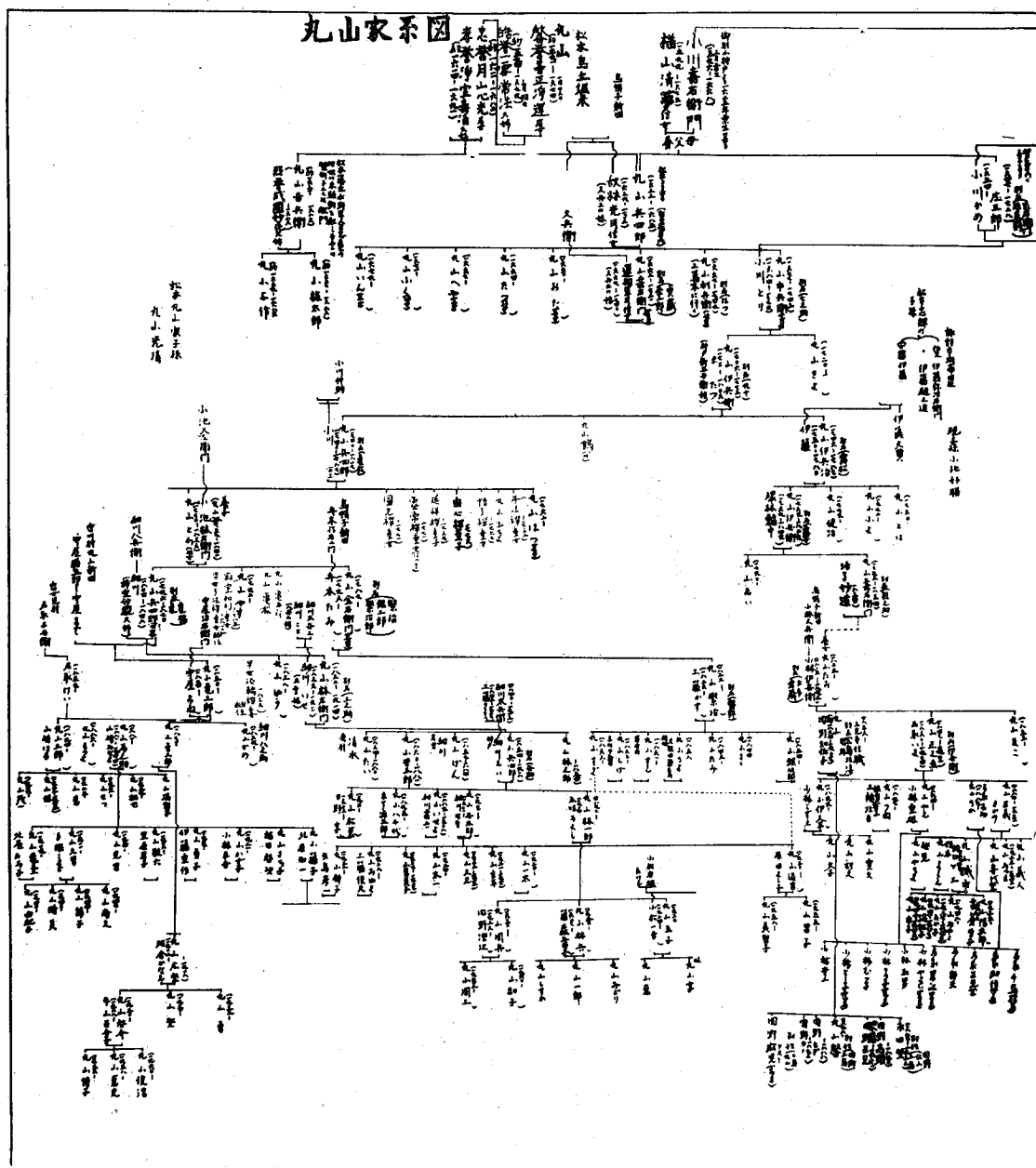
光を輝かそうではありませんか！
それでは彼が苦心して調べあげた系図からみてみましょう。

写真は

延宝八年（二六八〇年）の
宗門改人別帳

十一頁は丸山家の系図





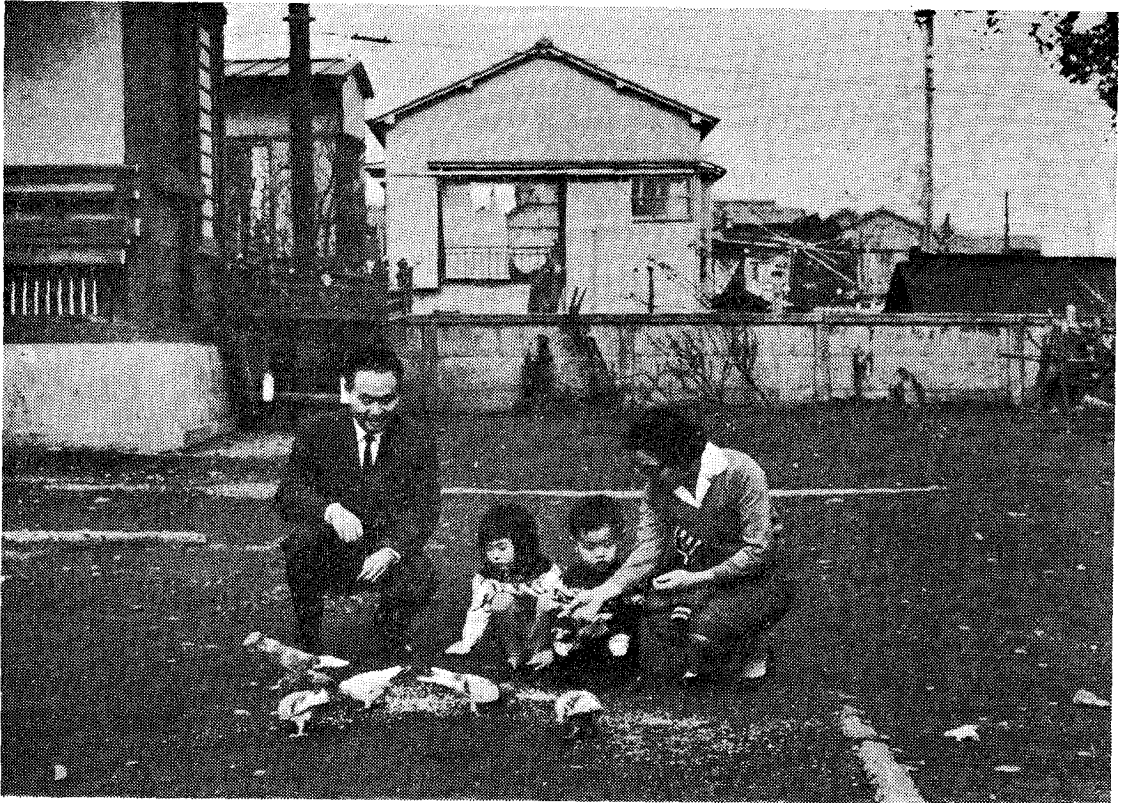
系図と証

丸山周兵

(東京中央支部)

私はバプテスマを受けてから八年間、よろこびをもって先祖の探究と先祖が救われるために働いてまいりました。昨年七月、幸いにして、ハワイの神殿において私自身の先祖が救われるための不思議な儀式をこの目で見、この耳で聞き、この身体で感じたのであります。私ができるごとく、私の先祖も救われる機会があるのであります。霊の世界にいる先祖のために働くことは、実に不思議なことです。先祖の霊が私に呼びかけ、私に働きかけていることが、はっきりわかります。私は幸いにして、諏訪藩の宗門改め人別帳(徳川時代の戸籍簿)が文部省史料館に保管されておることがわかり、先祖探究の道が開かれました。かぎりない先祖のために一生懸命働きたいと思っています。

それでは最後に私のつたない詩を紹介します。



丸山兄弟とその家族

我は今ゆかりの地に立てり

標高正に三千有余尺

南はるかに秀麗富士を望み

東を指させば八つ万重の山。

頭を回らせば十有余年の夢

救にあづからむと希う先祖の霊。

墓標に示す歴代の横顔

初代は高潔嘉右衛門拓く

閉びやく以来早や三百有余年

末日に時は満ち我神権の訪ずれを聴く。

我が心本祖先の如く

祖先の心我が心の如し

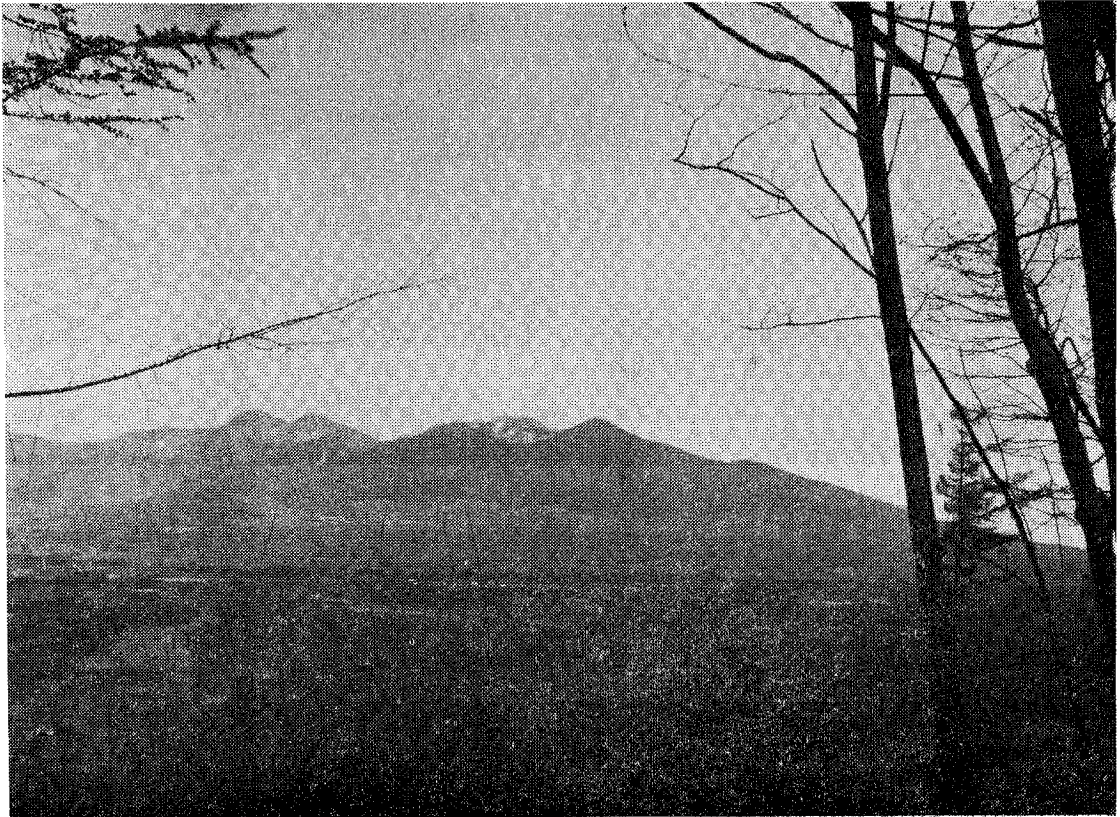
我と祖先と両つながら相結ばれ

共に真の福音によらん

この地で生れこの地に還りし祖先の為に

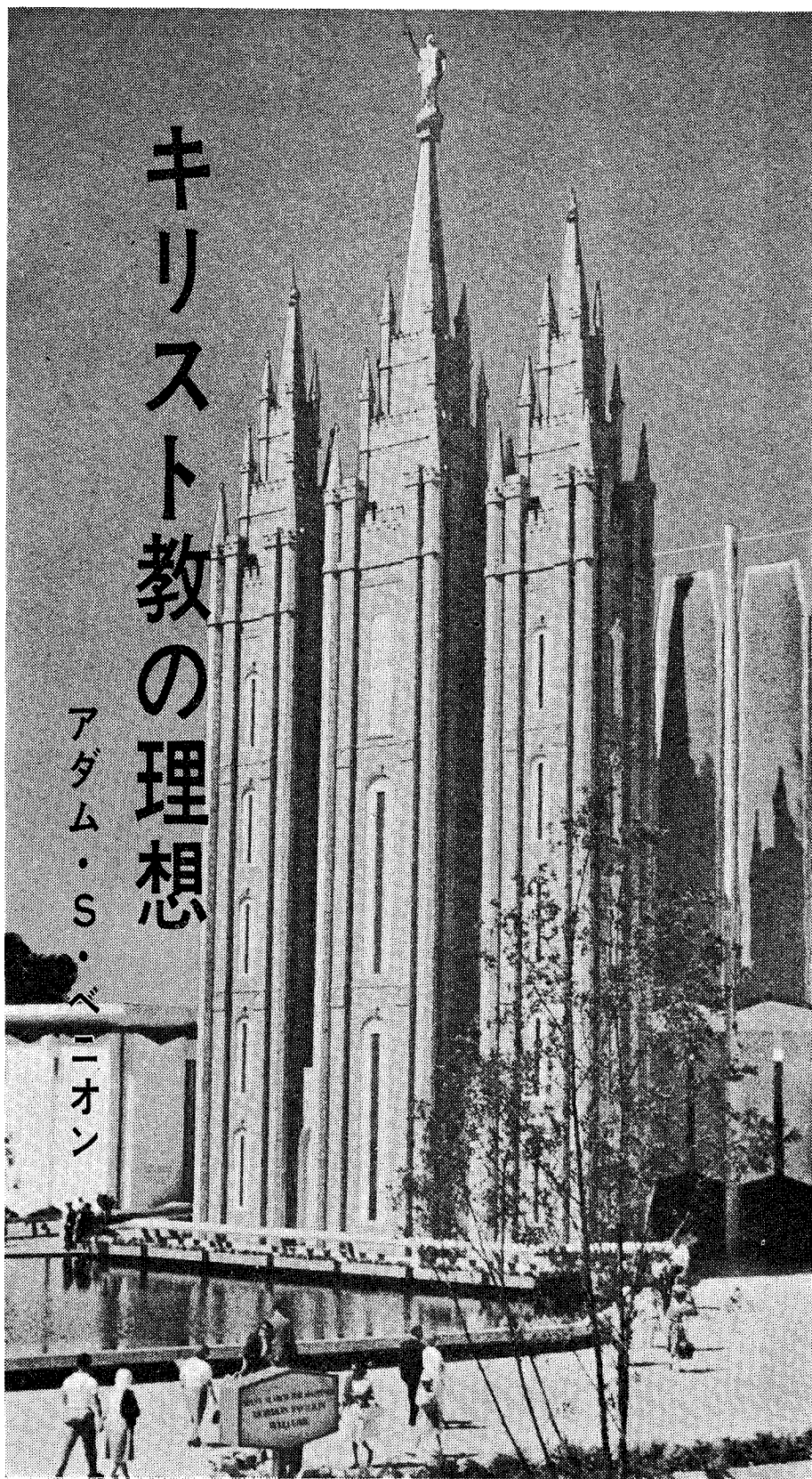
我は救い手にならんと欲す。

(写真は丸山兄弟撮影)



キリスト教の理想

アダム・S・ベニオン



主題を選ぶことは大変にむずかしいことである。私たちはある一つの小さな事柄を取りあげて、それを拡大して話したり、またみなさんの直面する問題などを取り上げて、みなさんの関心をよびさますせることもできるが、しかし、今は何か新しいことを語ったりすることは大変にむずかしいことと知りつつ、キリスト教の理想という分野に話を進めてみたい。

私はいつもまずはじめに自分の話に関係ある書物の名前を発表し、次にその書物から完全に離れ、そして遂には、その書物の中に書かれてある話に関係なく、自分の話をすすめて行くといわれていた、西部中央のある牧師のようなことができたと思う。私の今日の話は「キリスト教の理想」ということである。

私がちょうど二十才前後の年頃であったとき、オランダからの移民の一人であったジェコフ・リースという人によって書かれた「アメリカの形式」というアメリカンプレス社発行の書物があつた。

この書物はひどく私の関心をよびさましたものである。私はこの書物を読んだときに、とても新鮮な気分を味わうことができた。この書物のなかには、アメリカ人の言葉を全く理解しない若い一人の外国人について書かれてあつた。その若い外国人はシカゴで仕事をみつめてそこに移り住んだとき、初春の雪どけの頃になると道路がぬかるみ、両側の家の人々が

大変困まっていたのに出会った。その時ある人が歩きやすいように、二枚の板を置いたらどうかと提案した。昼間の明るいときであつたのでとてもよい考えだとすぐにその提案に賛成した。しかし、夜遅くなって帰宅するとき、その板は泥のなかにうずまわってしまつて使いものにならなかつた。しばらくして彼によいアイディアがみつかった。それはその板の先にちょうちんの灯をつけたらということであつた。そのちょうちんの灯を目あてに人々は板の上を歩けば安全なのである。

リースは、若い男性でも女性でも、遠い行末に向つて前進しようとするなら、自分の行く道を明るく照らす、ちょうちんを前に差し出して行かねばならないといっている。私は一つのちょうちんをみなさんに示すことが出来ればと思う。

考えを変えて、私はヘンリー・ラッセル・ミラーの「アメリカの理想」という書物を取り上げてみたいと思う。この書物のなかには、一九一八年二月二十日にヘンリー・ミラーが、フランスで戦いたけなわの折に、戦場の隅を散策するように命ぜられた時の話が書かれている。そこには一日六回もとらわれたり、取りかえされたりした小山があつた。……彼の言葉を續けて読んでみよう……「夕方になるまでに、私はこの小山を横切つて前進しなければならなかつた。そして私は坂道のところに来た。そこに私はふみつ

ぶされた表の上に横になっている兵士を見た。彼らは眠っているのか、とても疲れ切っている様子である。そしてどんなものでも彼らの眠りを妨げることはできないほどによく眠っていた。私はあなたがたに、夏の星空の下にひろげられたこの光景を見ておいて欲しかったと思う。それは決してうつくしくも、またすべてが悲劇でもなかつた。そこにはアメリカの兵士が横たわり、死んでいるのでもなく、永遠に生きているのであつた。アメリカがそこに価値ある永遠なものとして示したのは、一つの理想に対する自由でそして変ることのない忠誠であつた。彼らはアメリカを生かせんがために深い眠りにあつたのである。

われわれの前にあるものが、たとえちようちんであろうと、また輝かしい概念であろうと、人間は常に理想に引っぱられるままに導びかれきている。私たちは小さいときに、よく自分の好きな人にあることがれたのを思い出す。幼いとき自分の心に最も完全に思われた人は、お母さんおばあさん、友人などであらう。私は幼いとき、どうしても打ち負すことのできない一人の少年にあつたものであつた。もしあなたがたが学校で学んでいる最中であるなら、他の人々を鼓舞させるような人格者に出会ふことがあるであらう。

私は、あなたがたの生涯を通じて、一つの理想となるべき人をお与えしたい。それは単に子供の考えるような理想的人

物とか、学生の考え出す理想の人物でもない。全生涯に対する一つの理想である。永遠に亘る理想でもある。この理想はこの世に生を受けた最も大いなる人格者であつて、その人は神の子である。この方は復活を可能ならしめた御方であり、人類の救い主である。ある人は、この理想は我々を超越しているというかも知れないが、理想は常にわれわれを超越すべきものである。もしわれわれが到達できるものなら、それは我々にとって、理想でも何でもなくなるのであり、この主の理想に関して興味あることは、主が極めて謙遜で、その生活に於ても我々に極めて近い人であり、次のような約束を我々に残してくださつた方であるということである。

私は今日、この大いなる人格者をみなさんに紹介したいと思う。人格者は人間であり、私はここでキリストの人格を特色づける五つの事柄を簡単に要約したいと思う。

我々は「イエスの理想」という書物のなかに六十以上の理想を見ることができから、ここではすべての理想について話をうとしなない。しかしながら、私はそのなかの五つについてみなさんの関心をうながしたい。……まずはじめにこの人は愛と奉仕を根本にして、あらゆるものの基をなしていることを覚えていただきたい。この二つの美德はこの方が仰つたこと、実行されたことのなかに見出



されるのであるが、私はみなさんにイエスの教えばかりでなく、その生活にも注意していただきたいと思う。いつか私はイエスの生活と、その教えについて強調するつもりであるが、今日は五つの理想だけにとどめて考えてもらいたいと思う。

最初に私はあなたがたの全生涯を通じて導きとなるものは、あの大きいなる標準聖典、聖なる著作物、聖文であると申し

あげたい。

第一の理想は常と異なるものであって私は今だにこの理想について話し合われたのを聞いたことのないものである。それは富める生活に対する適切な準備ということである。イエスが単に三十三年間生活し、その準備のために三十年間を費やしたということに注意してみよ。このあいだの夜このことについて考えていたとき、私はそれが極めてすばらしいこと

であることに気がついた。イエスは実に全生涯の十一分の十を準備のために費やしたのである。パーセントというなら九十パーセントが準備期間であった。

私はあなたがたのうちの幾人かは、時々働くべきか、働かざるべきか、どちらでもよいという考えを持っている人がいるであろう。仕事のためには四十年、五十年、六十年という長い期間があると考えているのである。適切な準備をするた

めに少しの時間を費すのは大変によいことである。更にキリストが長い間かつた準備の終りに四十日の間出て行って、自分に課せられた仕事に対して自分も準備ができているかどうかのためしをやったということを覚えていよう。私は、自分の生活と説教に於て、すべての若い人たちは自分の準備をしなければならぬと説き明かした人があるとすれば、それはナザレのイエスであると信ずる。だからもし、私が今あなたがたと同じ状態にあると仮定するならば、私はできるかぎり早く学校を終えてしまいたいなどとは、決して考えないであろう。私が電力会社に行ったとき、ある人々が学位なんか取るのは、実はばかげていやしないか? と聞いた。私は私の能力以上に大学に席を置き、また学費の続く限り大学で勉強できたのを感じている。これには私の妻の援けが極めて大きかったというのを申し上げねばならない。彼女は四十年以上にもわたって、私と生活を共にし、大いなる助けを与えてくれた。このような婦人には心から頭をさげたい。私が学業に従事するために外にあらったとき、妻は常に定にあって、家庭の切り廻しに忙しく働いてくれたのである。ある人にとって、このことは少々困難と考えられるかもしれない。

大いなる準備をされたイエスは次のようにもいわれている。「私が来たのは、羊に命を得させ、豊かに得させるため

ある」(ヨハネ伝十章十節)

また山上の垂訓の終りの方でイエスは我々に大いなるよろこびをお与えになつておられ、モルモン經典のなかにそれにまつわる一つの大きい言葉がある。

アダムが墮落したのは人類を生ずるためであり、人類が現世にあるのは幸福を得んためである。(ニーフアイ第二書二章二十五節)

これは強制の計画によるものであると考へてはならない。人類の主なるキリストの直価をはつきり認識するなら、今だから墓に見たこともない最も完全な生活のために、適切な準備をなすことができるであらう。

キリスト教の理想として第二番目に私の提案したい理想は、「困難に直面するための勇氣」である。今ここで御子イエス・キリストの生涯をしばらく考へてみよう。聖典のなかには、この点について多くの事柄が書き誌されている。

「艱難のなかにも忠実なる者は幸福なるかな、その人の報いは天国に於て更に大いなるべし。逆境にありて倒るる者はその力極めて小なり」

諸君のなすべきことは、この末日に通い、またイエスが輕蔑され、つばをかけられた法廷に於ても、直弟子がいねむりをしたゲッセマネにあつても、イエス・キリストに従順に従ふことである。キリ

ストと共に丘に登り、人間に知られてゐる最も残酷な死刑によつて殺されたキリストのそばに立とうではないか。諸君は現在自分が困難に直面しているという自覺を持っているであらうか。私は自分自身、みなさんの経験されてきたことを経験してきている。私は今日洗濯場で一人の男の子に逢つた。彼は自分の学費をかせぐために洗面器を洗つていた……。

この少年は私にあいさつをしなかつた。私はこの男の子になんら心配も不安も感じていない。この子は必ず学校を卒業して、必ずや自分のものである勝利の栄光を得ることであらう。みなさんいろいろな困難や問題を持っているかも知れない。私は今日学校中を車で廻り、寄宿舎の近くに多くの洗濯物のぶらさがつてゐるのを見た。今日もここに集まつてゐる人なかで、お金が一銭もなく困まつてゐる人がいるであらう。私は十セント銀貨がひじょうに大金に思へた時のことを思い出すことができる。ある人はある学課の成績があまりよくないのを失望してゐるだらうし、私よりもつと代數の勉強に困難を感じているかも知れない。しかし「最初の三ヶ月間は何もわからなかつた学課が少しの努力でわかるようになり、今考へるとよくやつたものだと思ひ出すであらう。

今している勉學に対して「なんの利益があるのか、こんなものは私に少しも関係ない」と自分にいいかせて、少しば



かりがっかりしている人がきつというと思う。私はラテン語を勉強したが、この言語が私の時代のアメリカ人に何の利益があるのかと思ったりしたこともある。

しかし私は中除半端にしないで、この言語を勉強し続けたのをうれしく思っている。私は今日、この言語を話す機会もないし、読む機会もないが、しかし、この言語が私の英語をよりよくするための助けがあったことはいうまでもありません。私は自分の国の言語を研究するにあたって、この言語の研究が他のどのような方法より勝っていたと確かに感じている。

私はハネムーンに私と共にコロンビア大学に行ってくれた妻に感謝している。私はその時にあたって、前にやったことのないような大がかりな貯金をしたことを覚えている。「私と妻はニューヨークで楽しく過ごし、またいわゆる立見席でオペラを見る」に充分なお金を所持していた。私はずっと後になっても一度行ってみるまで、オペラがどういふものかはつきりわからなかった。なぜなら、私はいつもこのようなバルユー（つまり立見席からオペラを見ているのが常であったから……）。

けれども私はとても愉快な時をすごした。ショーを見たり、ニューヨークの町々を見物したりした。私がハーバード大学でなくコロンビア大学へ行きたいと考えたのは、世界で最もすばらしい所の一

つであるニューヨークの町に住んでみたと思ったからである。ニューヨークから帰った後、私たちは二人の子供と一緒にシカゴに行ったり、四人の子供をつれてカルフォルニアへ行ったりもした。

四人の子供と妻を旅先から国に帰らせるために駅まで送りに行ったとき、私は是が非でもクリスマスまでに学位を取りたいと望んでいた。その時妻はにんしんしていて近く子供を生む予定になっていた。このときのことは一生忘れることはできない。私は期末試験にそなえて毎朝二時か三時ごろまで勉強にはげんでいたが、私から離れた所で、このような幼ない子供を育て、そして学校に入れるために孤軍奮闘しなければならなかった私の妻にとって、私の想像もつかない程の苦心と勇気が必要であったことであろう。私は、この期間中に子供が生れたという知らせを受けたが、実際にこの目で会ったのは五ヶ月経った後であった。私はこの事実に対して妻に心から感謝している。

このことは、その後の生活に自分をばげましてくれた基となっている。私は常に「汝らの為しことすべて為し、かつそれ以上のことも為せり」という神の子のささやきを耳にするようにつとめていた。

パークハート夫人が次のようなことを書いていた。彼女は十三才の時に両親を失い、家族と一緒に住むために都会に行

かなければならなかった。次はこの時に彼女が書いた言葉である。「私が田舎から出て、シカゴの町へ移って行った時、世界は私の前に全く閉ざされた感じだった。……」

私は夜の空に星を見ることが、朝の露の香をかぐこともできなかった。いつもそば近くあった神様さえ、去って行ってしまわれたように感じた。私はある日夕方、悲しそうに家の外の階段のところに腰かけていた。すると、ホテルの日雇いで働いている婦人が、夜勤のために出かけようとしてそばを通りかかった。彼女は私の前に来て、立ちどまり、手を私の頭上に置いてこう言った。「生活は楽しいものですよ。楽しくおやりなさい」。

私はこの言葉を読むたびに、とてもうれしい気持になる。しかし、ここで私はいつも何回となく注目的になっている第三の理想について話してみよう。諸君のごとき若い人たちは、この点について苦心する必要はないであろう。イエスは「幸福なるかな、心の清き者、その人は神を見ん」と言われている。私はこの間自分の一生を通して読み損ねていた一つの言葉を讀んだ。それは次のような言葉である。「軽々しく人に手をおいてはならない。また、ほかの人の罰に加ってはいけない。自分を潔く守りなさい」(テモテ前書五章二十二節)

ここで一つの小さな秘訣を与えよう。それは、自分の心の中にある神性を学

び、いつの日か、子供の母となる女性の美しさと美德とを尊重して、次の言葉「汝自身を純潔且つ清くに保て」を遵守するのを自らの誇りとせよということである。

第四番目の理想は、キリストが自ら何回となく例証したもので、キリストはこの理想を決していかなるものによってもりょうがされることのない言葉のなかに置かれた。これは千九百年ほど前の言葉であるが、今日の社会にとっても欠くことのできないものである。「だから、何事でも人々からしてほしいと望むことは人々にもそのとおりによせよ。これが律法であり予言者である」(マタイ伝七章十二節)

第五の理想は以上にあげたすべてを超越する……。これは暗黒や死さえも目す信仰であり、私はこの最後の理想、すなわち祈りが聞かれ、それが真実であるということをみなさんに告げる信仰に結びつく霊的な愛着心、献身及び能力のあることを心からみなさんと共にほこりにしたい。

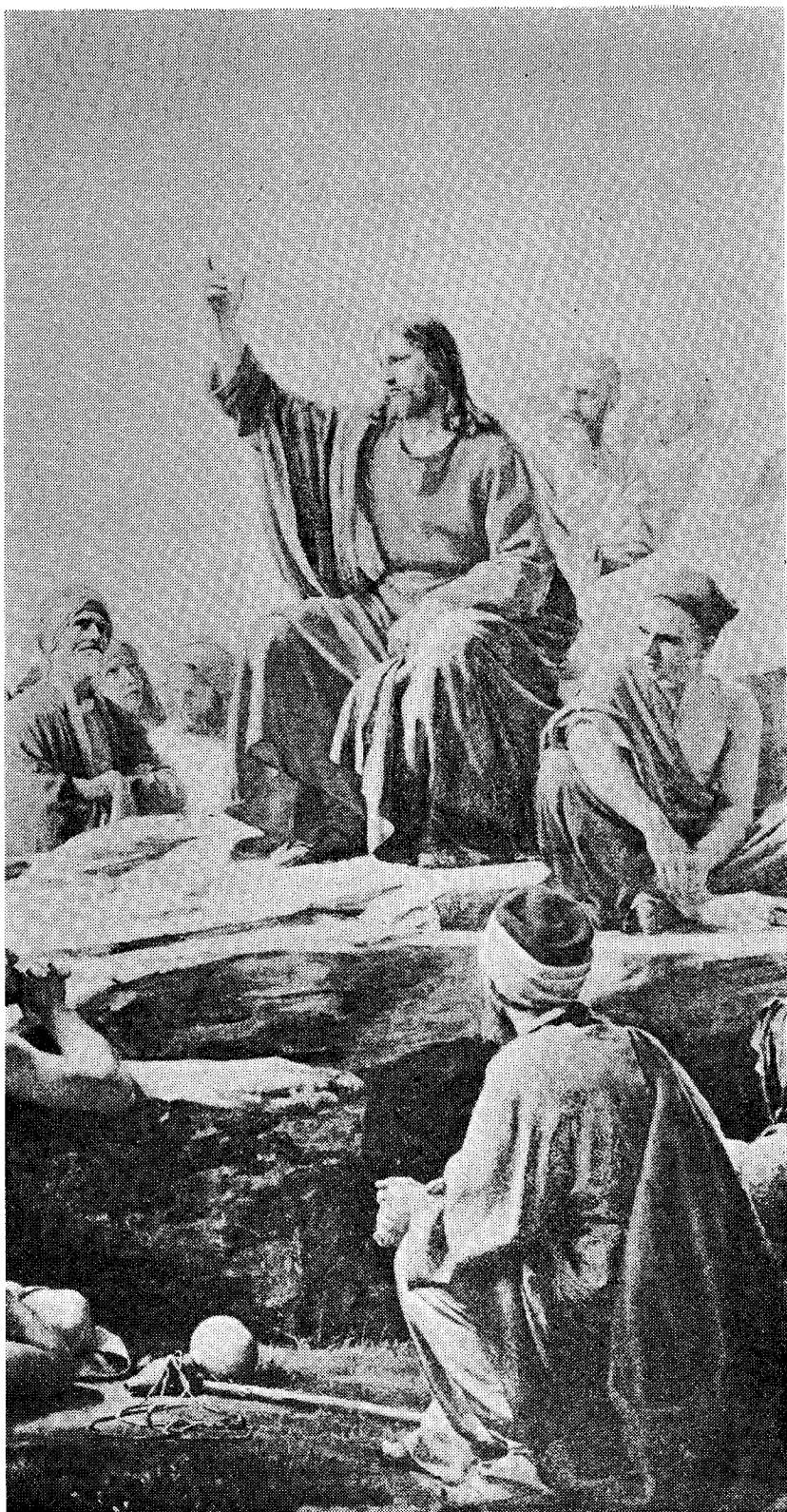
終りにあたり、私は私自身の証問をのべたい。もし主の「みたま」を把握するなら、必ず諸君は富める生活への準備をし今日の問題や困難に対抗する勇気を培い個人の純潔を導び、日々、黄金律を実行し、すべてを見通す信仰を祈り、献身をもって行使するであろう。私はこの簡単な証詞を残したのである。

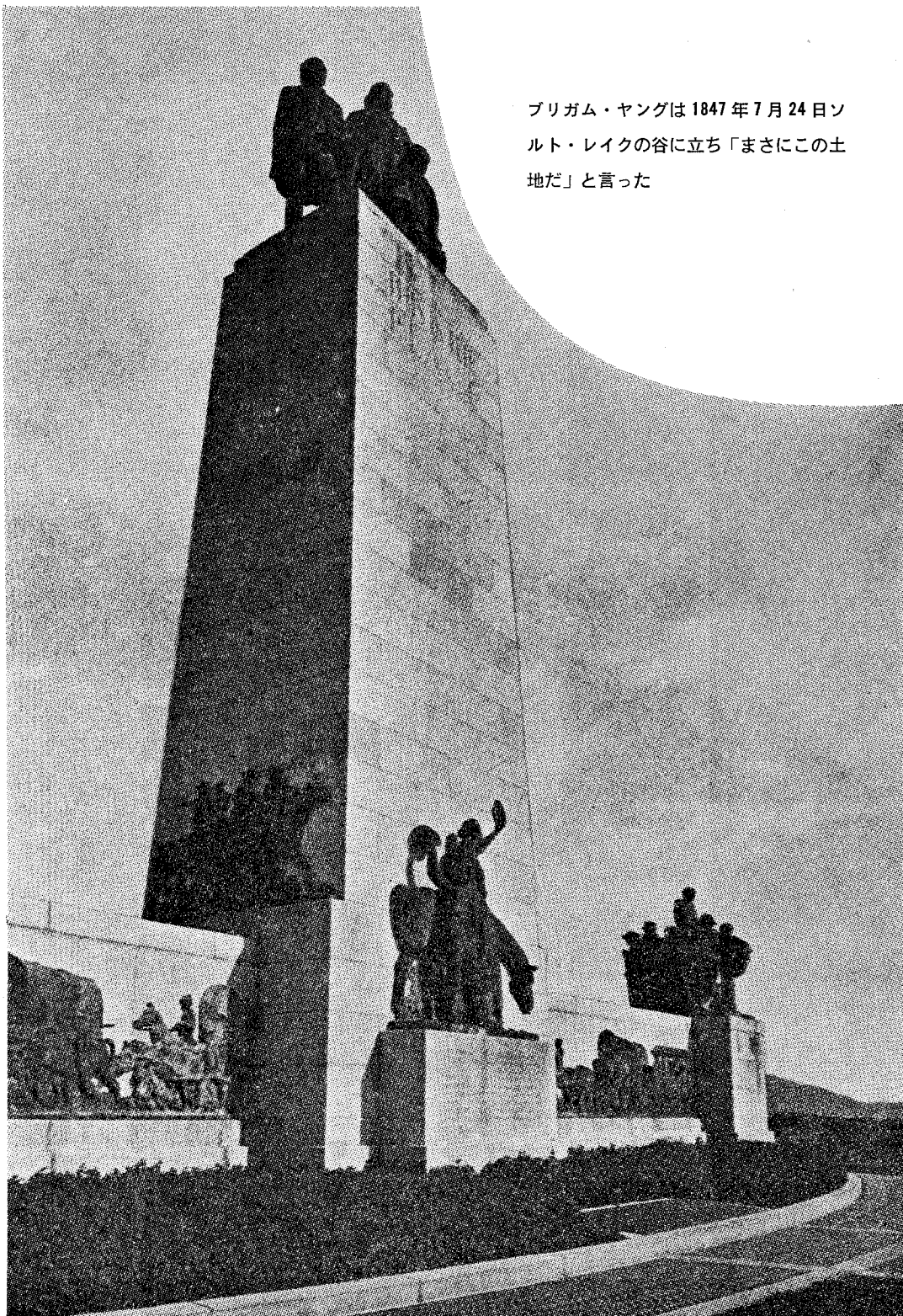
去年の春BYUの始業式に出席するために、私は家に急いで帰る必要があった。その前に済さなければならぬ電力会社の仕事があったので、ニューヨーク市へ行ったが、日が限られてしまったため、とても大変であった。少しのおくれでアトランティック市を出て、最初の日を七五〇マイル車とばし、私が家に着

いた時には筋肉はマヒ状態にあった。私は五日間床に横っていたが動くことも出来なかった。医者が呼ばれ、よく尽くしてくれたが、まだ背中に痛みを覚えた。私はここでこの時の証詞をたてたい。私は十二使徒のハロルド・B・リー兄弟に依頼して、祝福をお願いした。彼は私の床の傍にひざまずき、「ベニオン兄弟、私

たちは召しの『みたま』により全能なる神に助けをうけました。あなたにはまだなすべきことがあります。あなたは必ずそれを果すことが出来るであります。う」と諸君は今、心の中に神が生きたま

想」をもった輝まかしき生活に諸君を導き入れたもうよう、私はイエス・キリストの御名によって願ひ捧る。アーメン





ブリガム・ヤングは1847年7月24日ソ
ルト・レイクの谷に立ち「まさにこの土
地だ」と言った

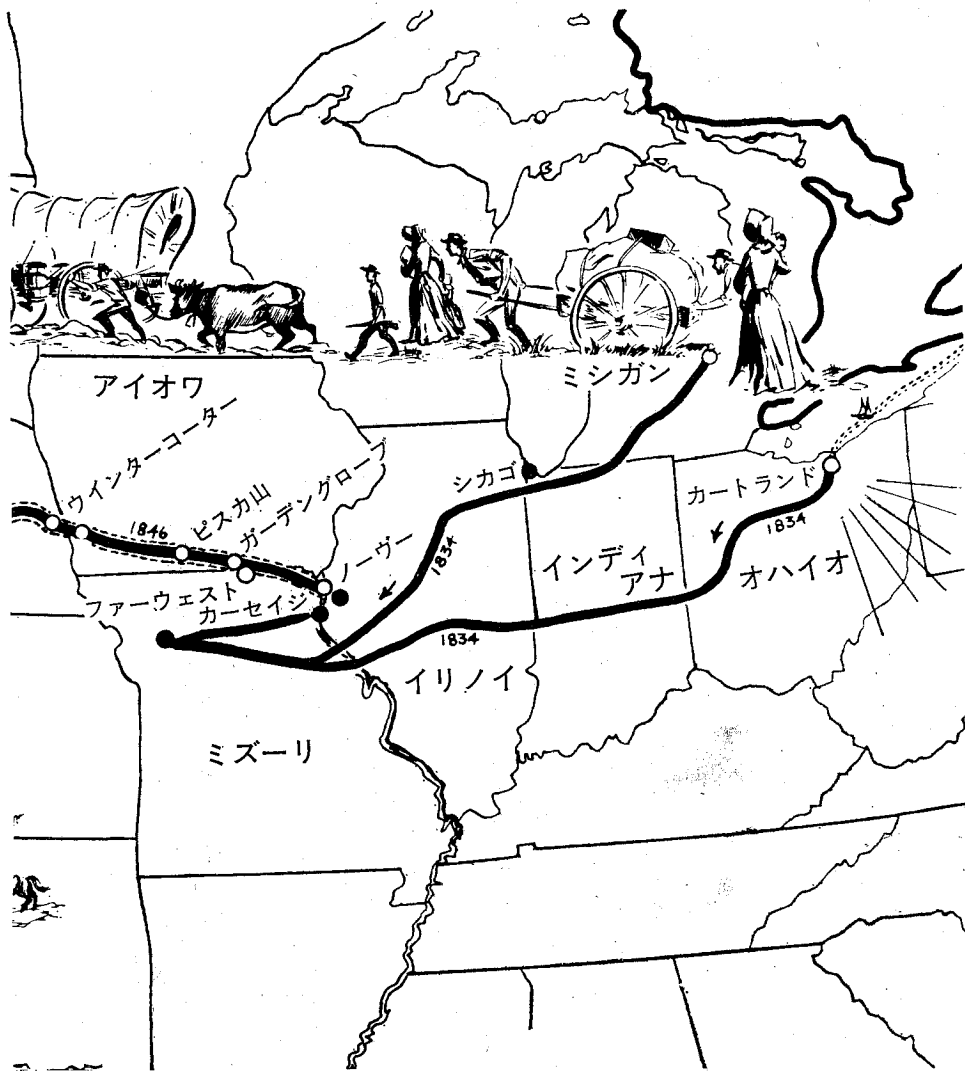
西部を旅した 聖徒たち



一八三〇年四月六日、教会が回復されると、迫害は以前にも増して強くなり、予言者ジョセフ・スミスをはじめ聖徒たちは数多くの苦難にあいました。ジョセフ・スミスが受けた苦難はちょうどパウロが受けたそれとよく似ています。コリント人への手紙でパウロは「……投獄されたことも、もっと多く、むち打たれたことは、はるかにおびただしく、死に面したこともしばしばあった。ユダヤ人から四十に一つ足りないむちを受けたことが五度、ローマ人にむちで打たれたことが三度、石で打たれたことが一度、難船したことが三度、そして……にせ兄弟の難に合い、労し、苦しみ、たびたび眠られぬ夜を過し、飢えかわき、しばしば食物がなく、寒さに凍え、裸でいたこともあった」(コリント人への第二の手紙十一章二十三〜二十八節)

一八三一年ニューヨーク州フエイヤットにおいて神より西へ移動するようにとの主の御意志に従って、教会の第三回目の大会が開かれ、聖徒たちはそこで、移動の準備をするように指示されました。この時、主は一つの格示をお与になり、聖徒たちに永久に承継ぐべき所を与えて下さると約束なさいました。が、その時が来るまで、オハイオ州へ行きそこで神の教えを受けて守ることができれば、力を与える約束なさいました。一八三一年二月一日、予言者ジョセフ・スミスと妻およびシドニー・リグーン・、エドワ

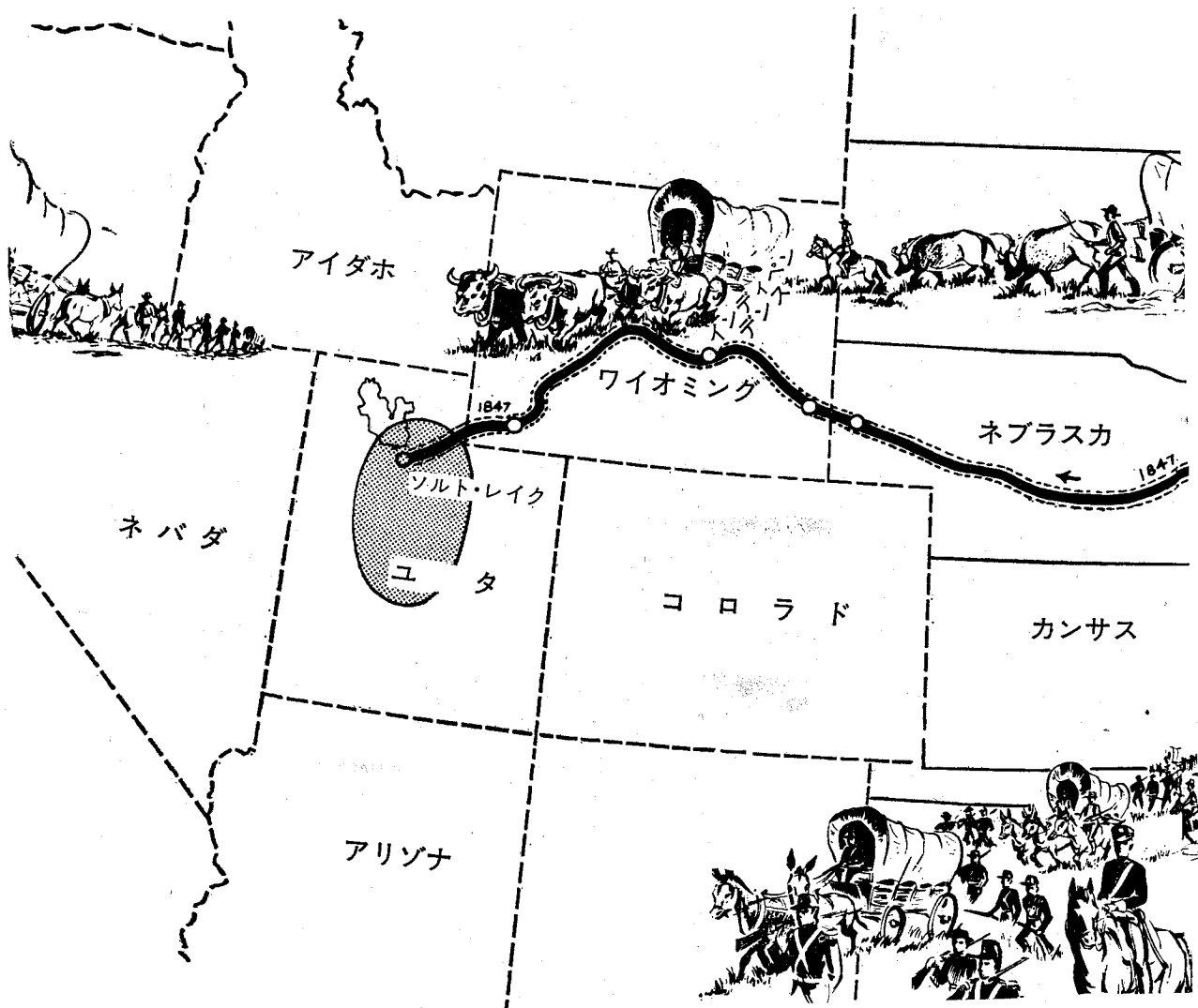
聖徒たちのたどった道



ード・パートリッジなど多くの聖徒たちは、オハイオ州カートランドに着きました。予言者ジョセフ・スミスがカートランドに着いてから後、ニューヨーク州の聖徒達は、オハイオ州へ移り、先に来っていた聖徒たちは、後から来た聖徒に土地を分け与えて、助け合いました。

聖徒たちは、皆まじめで熱心に働き、勤勉でした。が、迫害は増すばかりでした。その時、背教したエズラ・ブースと云う人は予言者ジョセフ・スミスおよび「モルモン」に対する非難をなんと九通も書いて「オハイオ、スター」と云う新聞に投書して迫害に拍車をかけました。

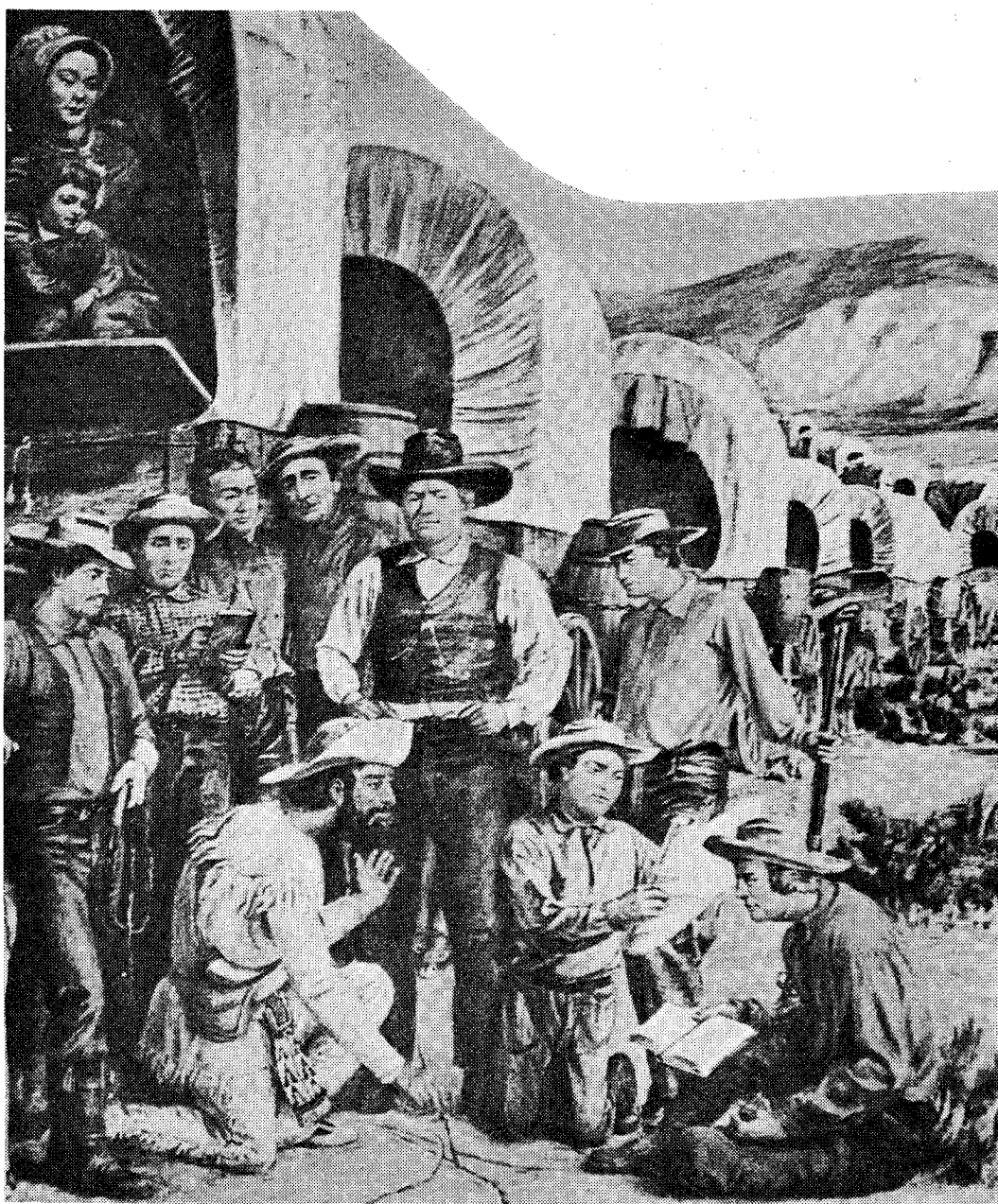
一八三三年三月二十五日の夜、オハイオ州ハイラムに於いて、予言者スミスとシドニー・リグトンに迫害者のために暴行され、着物をかけられ、その上全身にコールタールをかけられ、更にその上硝酸を飲まされようとしていました。しかしその次の日予言者は傷を負いながらも、前夜暴力をふるった者も居る集会に出席して、神の教えを説きました。迫害が増々強くなるので、予言者はこの町を去ることにして暴徒をさけ回り道して、ミズリー州インデペンデンスへ行きましたが、この時予言者ジョセフ・スミスの子供の子供の双子の中の一人が死にました。それは予言者が暴行にあったその夜、妻のエスと子供たちは外に放り出されたため病気になるについに死んだのであります。この子は教会の最初の殉教者となったのであります。



す。

「モルモン」追放すべしと迫害者たちが主張する理由は一言で云うなら「モルモンは生ける神を信ずる」からでありました。歴史家ホイットニーはその様子を「武器を持った暴徒共のグループは全地方の民家に侵入し、あるいは女、子供を恐喝させ、またなんのそなえもない人々に即時退散を命じ、命にそむく者は殺してしまおうと言っておどしました。住む家を追われた人々はミズリー川にそって十一月の寒き原野に凍え、雨にぬれて、食べるものもなく、宿もなく、涙にむせびそこかしこをさまよいました。愛する家族の者の行くえも知れず、夫は妻を、妻は夫を、そして親は子、子は親をたづね子供を見失った親は子供がすでに死んでいることも知らずに捜がし歩きまわした」と書いています。この時約千五百人は家や財産を失い三百戸の家は灰となっていました。

悪序のたくみは働きに、けしかけられて、善良な聖徒たちは、アダム、オンドアイ、アーマンを追はれ、ファールウエストにやって来ました。一八三八年秋聖徒たちは自分の生命を守る自衛手段を取らざるを余儀なくされました時、暴徒はモルモンに対し州兵と共に法律上の罪もない聖徒を迫害しました。歴史家バンクロフトはその様子を「かくして最初は「モルモン」教徒を助けて、ミズリー州の暴徒を鎮めるために召集されたミズリー州兵



は、ついに暴徒に加わって、「モルモン教徒」に敵対したのです。聖徒はミズリ州政府や、法律やあるいは国家の治安に反対したのではなく、ただ彼等は州政府の許可を得て自衛したにすぎません」と書いています。十月三十日二四〇名の暴徒はハンス・ミールと云う所にいた聖徒、男も女もそして子供も合せて二〇人を虐殺して井戸に投げ入れてしまいました。政府の役人も暴徒を恐れて聖徒の嘆願を聞き入れて下れませんでした。

難難辛苦にあいながら作った財産を奪われて、しかも、夫や父や、兄を奪はれてしかも真冬に住む家をまたも追はれた聖徒の姿を歴史家ホイットニーは「その冬（一八三九年）男女あわせて約一万二千人程の末日聖徒は無情なる暴徒共に追はれて、凍る雪の中を道に血の足跡をのこして、ミズリー州からのがれました。財産を奪われ住む家もお金もない末日聖徒は永結したミシシッピ川を越えて、イリノイ州へ行き心ある人々に暖かく受け入れられ、彼等の苦難に同情し、暴徒に怒りを覚えました。」と書いています。神をおそれ、予言者に従い、国の法律を重んずる善良な聖徒はただ「生ける神を信じている」それだけの理由で苦難にあいました。「義のために迫害される人たちは、さいわいである。天国は彼らのものである。わたしのために人々があなたがたをのしり、また迫害し、あなたがたに対して偽って様々の悪口を言う



時には、あなたがたはさいわいである。喜び、よろこべ、天においてあなたがたの受ける報いは大きい。あなたがたより前の予言者も、同じように迫害されたのである。」(マタイ伝五・一〇、十二) 聖徒たちはこのことを知っていたに違いない。

一八四四年六月二十八日カーセージに於いて予言者ジョセフ・スミスは血でもって証詞を立て兄弟ハイラムと共に殉教しました。

ナーヴーを出てウイタークオータースにやって来た時六百余人の聖徒たちは熱病のため霊界えて旅立って行きました。

(讚美歌)

恐れず来たれ聖徒)

一八四七年七月二十四日ソルト・レークの谷に立ち示現に見た場所であること「まさにこの土地だ」と言って、インデアンさえ欲しなかった砂漠地帯をイザヤ書四九章二・二三節にある予言の成就として、イスラエルの聖徒たちを導きました。パイオニア・スピリット(開拓者精神)はモルモンに不屈の精神を与え、いかなる苦難にあろうとも生ける神の教えを守り通す教訓を私たちに教えています。

阿倍野支部

とうとう阿倍野支部の建物が完成しました。四月十日、復活祭の日に始めてこの新しい教会堂で集会が行われました。

礼拝堂には、カーペットがしきつめられ、備えつけられた椅子や、説教壇は、ハワイのワイド部と同じです。リクレーションホール、調理室、教室、神権者の部屋、扶助協会の部屋等が完備されて、ピカピカ光った、この新しい建物の中を一步一歩歩いてみると、嬉しさが一杯になってきます。

ラーセン監督というすぐれた指導者の元に建築宣教師の全時間を捧げた奉仕によって、また会員たちの協力によって、完成したこの建物は、一つの奇蹟ではないでしょうか。

一年七ヶ月余りの間、忠実に建築宣教師たちのお世話をして下さった姉妹たちに、心から感謝したいと思います。それは、食事当番、洗濯、そして買い物や、つづくり等でした。そしてまた、現場での労働です。とりわけ、早朝から夜遅く迄働く建

築宣教師の、旺盛な食欲を満足させる食事担当者は、重要な役割でした。

一九六四年八月二十七日、福田、大橋、工藤長老の、三人の建築宣教師が到着し、その日の夕食から食事当番が始まったのです。

早速献立がたてられ、必要物品の寄附が求められて、食事当番の担当がきめられてゆきました。始めは、希望者が多くて、アンケートをとって働く分担をきめた位です。

また、毎週金曜日の夜七時から、建築委員会が開かれて、チャーチビルダーに必要な買物、寄附品、建築資金を集める方法、会員の奉仕時間等が討議されました。阿倍野支部の会員による労働奉仕時間数は、他支部に比べて、トップだといえますが、それでも長い月日のうちには、何度も監督から夜間作業は中止すると宣告されて、会員たちはドギモを抜かれました。ラーセン監督はまあ何と気が短い……と始めは思いましたが、彼の建物に対する熱意に打たれて、強く支持する会員たちが増えてゆきました。監督は、とても阿倍野支部を愛して下さ

り、私たちも、彼や、ラーセン姉妹、ローリーちゃん、忘れ得ぬ人となってしまいました。確かに監督は、神様がこの地に召された方であると思います。

ラーセン姉妹からも、私たちは色々学びました。お料理やお菓子、パンを作る方法、多勢の人のサンドイッチを早く作る方法、また、今年生れたアーネットちゃんを通して学んだ赤ちゃんの育て方等々です。

監督は随分お口が悪くて、日本で一番汚い処は台所、アメリカで一番美しい処は台所、等と仰云います。監督の台所より、私の家の方がきれいだわ、と反撥していた姉妹もいましたが、監督とラーセン姉妹は、一年住まれた教会内の建物を少しも汚さず、新しいままの状態で、きれいい好きのお手本を私たちに残して行かれました。彼は、教会堂が出来て後の管理を、特に心配して、いろいろとその方法を教えて下さいました。

壁に手や頭をもたせて、もたれかけてはいけません。食べものを食べてよいのは、リクレーションホールだけにとどめる。汚した時はすぐふきとる、カベや黒板に押しピンで紙をとめない

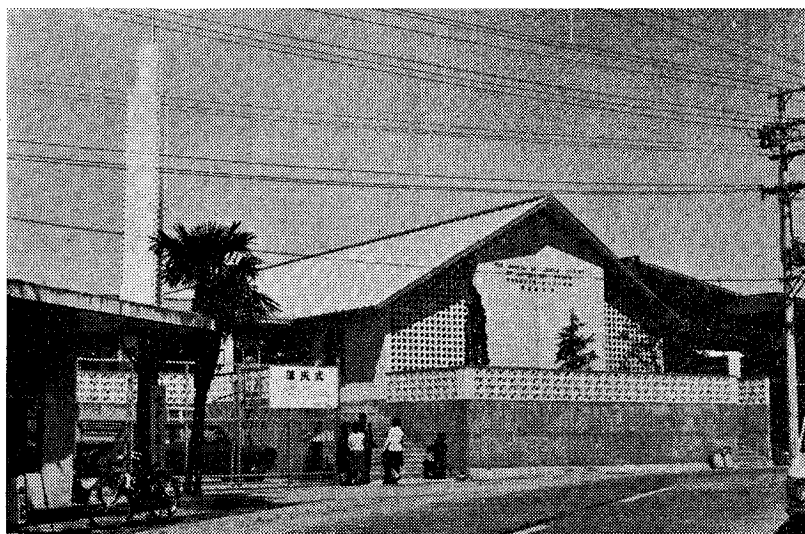
等、細々とした注意を教えてくださいました。市道兄弟に是非管理人になるよう云われ、彼は今、監督の精神をひきついて、毎日教会のみがきと管理に懸命です。

この建物には監督の魂が入っていると思います。また建築宣教師や会員たちの心が打ちこまれています。数え知れないブロックを、私たちはバラバラの時からみがき、またそれが積みあげられてからもみがきました。屋根が上げられ、塔が出来る姿を見て来ています。建築に参加した兄弟姉妹は、本当にこの建物を愛するようになりました。今後、この建物に、如何に多くの人々がやってこようと、汚さず、美しく管理することが、私たちに与えられた課題であります。

毎週、扶助協会の日に、洗濯物のおみやげがなくなつて、変な気持ちです。また、食事当番も、もう私たちの生活の一部になつていたので、ポツカリ穴があいたようです。

始めから終り迄、忠実に、確実に、責任を果して下さった姉妹たちに、ほんとうに感謝しております。食事当番のためには

完成になった阿倍野支部



一週間におよそ二十名余りの姉妹が働らいて下さいましたが、高校在学中からやり遂げて下さった姉妹が二人居ります。この責任を果す上に、非会員である家族の方々の協力も見逃すことは出来ません。ある姉妹のお母さんや、妹さんは、その方が当

番に行けるよう(昼間の勤務で買物が出来ないため)いつも買物をして下さり、また、自分のお金を出して、買い足して下さいました。また、ある姉妹たちは、家族の、絶え間ない反対の中でやり通して下さいました。しかし、二十数人の姉妹たちが全部始めから終り迄して下さいたという訳ではありませんのでよくできる欠員に頭を痛めました。一人一人きいて廻っても断られ、どうしようかと困っている時、自分から、私はお料理の勉強になるから、週に二回でもいいからさせて下さいと云われた時の嬉しさを、今も覚えています。

次の方々の責任も重要で苦勞の多いものでした。献立係(これは後半、国島姉妹がやって下さいました)それから、献立を配布して、毎日の食事が支障のないよう、担当の姉妹に渡す係(宮武姉妹)会計係(盛姉妹、各食事当番に必要なお金を渡してもらう係で、支部長から渡される一万円のお金は、その都度アツという間になくなります)洗濯係(岩崎姉妹)姉妹の労働係(沖野姉妹)といった係です。

いろいろの頼みを、快よい返事でひきうけて下さった姉妹たちのことは、決して忘れられないでしょう。苦勞は多くても、自分の支部の建物が建てられるということは大きい祝福です。しかし、祝福を受ける前に、神様はいつも私たちを訓練し、試しなさいます。昔、エルサレムを出たリーハイと、その一族の人々は、八年間荒野を旅して、野密と果物が豊かに実るパウンテフルという処にきました。しかし舟を作ってまたそこを去り、海を越えてどこかに旅をつづけようとするニーフアイをみて、レーマンたちは大変反対しました。けれども神様がニーフアイたちに与えようとされた海の向うの土地は、パウンテフルよりもっとよい土地でした。

私たちは、ブロックが一つ一つバラバラの時から、それを見がきました。また、そこにどんな立派な建物が建つか、完成図を見せられても、おおよそ想像出来る丈で、基礎の穴掘りをやりました。でも監督は全部御存じです。私たちは天井が出来、床がはられ、窓や、扉や、カーテンや、カーペットがしかれてすべてが完成したのをみてから始めて、立派さ、美しさを見出すことが出来たのです。日の光栄の王国もそうではないでしょうか。そこは、本当にすばらしい処であると聞かされています。しかし、完全にそれを理解することは出来ません。そこへ行くには、ブロックがバラバラの時から、即ち、主に従い忠実に働くことだと思えます。

教会堂の建築ということは、確かに苦勞の多い大事業です。でも完成したあかつきには、会員への大きな祝福が待っています。私たちは、その美しい建物の中で、誰にも、邪魔されずに福音を学び、神が指導者を通して、私たちを育て、訓練しようとう意して下さる、いろいろのプログラムを享受することが出来ます。それに、もっと大勢の人が、安らぎと、幸せと、救いを与えるイエス・キリストの福音を知るために教会堂が必要で

ふるいは、最後に動かされるのではなく、今現在動かされているのだときいて、私は、この教義を忘れることが出来ません。

いつも、どんな時も、神様とお話しをかわす、即ち、お祈り出来る資格を保つために、従順に誠めに従い、素直な信仰を養い、教会に出席しつづけなくてはなりません。

美しい教会堂が完成して、私たちは喜びが一杯です。この建物の献堂式が一日も早く行われるよう。会員たちは待っています。

献堂式を行うために、あと百万円が必要と発表されて、丁度一ヶ月のうちに八十万円が寄附されました。何と奇蹟ではないでしょうか。ある会員たちは、私の家迄わざわざ屈けて下さり涙を浮べて、本当に献堂式が出来るかしらと心配され、また、ある姉妹は、実家の母が何も云わず、ポンと一万円出してくれたと、証しなさいました。会員たちは喜んで出し合ったのです。

頑固だったけれど、また優しく、会員たちを本当に愛し、親しくして下さったラーセン監督が、阿倍野支部完成と同時に、

横浜に行ってしまったわれ、とても淋しく思っています。

監督の思い出は生涯残るでしょう。この建物をみるたび、彼を思い出すでしょう。

熱心に終始指導して下さいましたチニー監督やラーセン監督と御一家の皆様にご心から感謝し豊かな祝福がありますよう、祈っております。

また、ある時は朝五時から、ある時は、夜中の二時頃迄、自

名古屋支部

四月二十一日、私たち名古屋支部の会員は、MIAで演劇を



分の作業をやりとげて下さった建築宣教師たちの前途に、大きな祝福がありますように。

そしてまた、変らぬ熱意で、最後迄奉仕して下さいた兄弟姉妹の上に、神様の豊かな祝福がそそがれますよう、心から祈っております。

また、現在建築中の支部が成巧し、各地に、一日も早く、このように立派な建物が出来るよう祈っております。

行った。内容はMIA会長のモルモンアワーと題した短かい演劇で、MIAの宣伝をした。

現在の名古屋支部のMIAの会長の方々は大変活発であり十分楽めた短かい劇であった。

次は宣教師の知識の機械という、いかにも宣教師的な船来のも喜劇であった。

その次が私たち名古屋支部の誇るべき会員の(汚れなき剣)という題の創作劇でなかなかの好演であった。

松本支部

風、薫る新緑の五月を、各支部の皆様はいかがお過ごしになり

ましたでしょうか？ 松本支部は一昨年購入した一千余坪の土地に、ブロックで塀を積むとゆう実に喜ばしき機会に恵まれました。

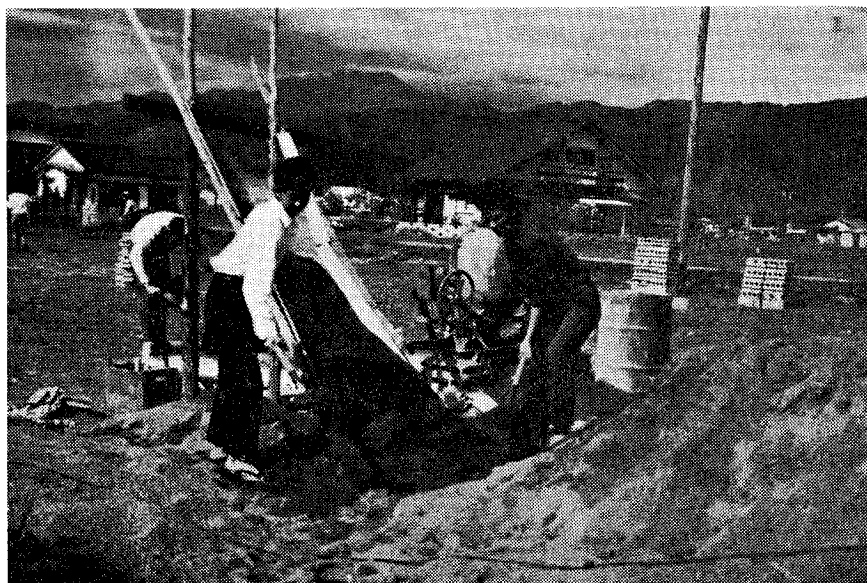
土地があつてそこに塀が出来る。「次には何が行なわれるか？」私たち会員一人一人には良く理解する事が出来ました。

四月十五日、五人の長老たちが建築のために来松し、それから松本支部にとって全てが新しい事でした。

鎌倉兄弟を中心としての建築委員会は、持てる全ての力をまのあたりに見る神様の御業のため集中させ、建築資金集めに、また最大限会員たちが作業に参加するよう奔走しました。その結果、当初の目的に近い資金が集められ、また会員の建築参加も熱心に行なわれました。

常時出席の姉妹八名足らずの扶助教会では、土屋姉妹と百瀬梅代姉妹を除けば二十一才前後の若い姉妹たちばかりですが、二人を中心に、良く助けて宣教師の食事、洗濯、掃除等とどこおりなく終えることが出来ました。

三日間の五月の休日は会員たちにとって、神様の仕事に協力



出来る最も充実した休日でありました。五月晴の空の下、残雪をいなく日本アルプスを背に、会員はその汗と共に働きました。

土曜日の午后と二回行なわれた夜間作業の折も、会員たちは

良くつとめました。誰の心にも「神様の御業の手助けが出来るんだ」という誇りがありました。途中から応援に来た二名の宣教師を含めて、七人の建築宣教師の皆様は、本当に良く働いて下さいました。東京や大阪のそれとは違い、澄みきった空の松本は、日射しが強く届きます。誰れの顔も、誰れの顔も真黒で、腕は日に焼けて皮がむけていました。黙々と働いている長老達の姿には、ただ頭がさがるのみでした。

五月十四日、全ての作業は終了しました。やって来た七人の侍を送り出した今、何か寂寞としたものが感じられます。でも私たちの心は、この機会を通して、さらに大きな炎となりました。

私たちは会員の誰にとっても、本当に充実した一ヶ月でした。七千個のブロックとまばゆい太陽と、日やけた建築宣教師の顔は、いつまでも私たちの心に残ることでしょう。礼拝堂を建築中の、各支部の皆様の働きに比べれば、小さな私達の行いかも知れません。けれども、私たちの松本支部は、さらに大きな希望に向って、若葉の

五月、力強く出発出来ます事を心より喜んでおります。

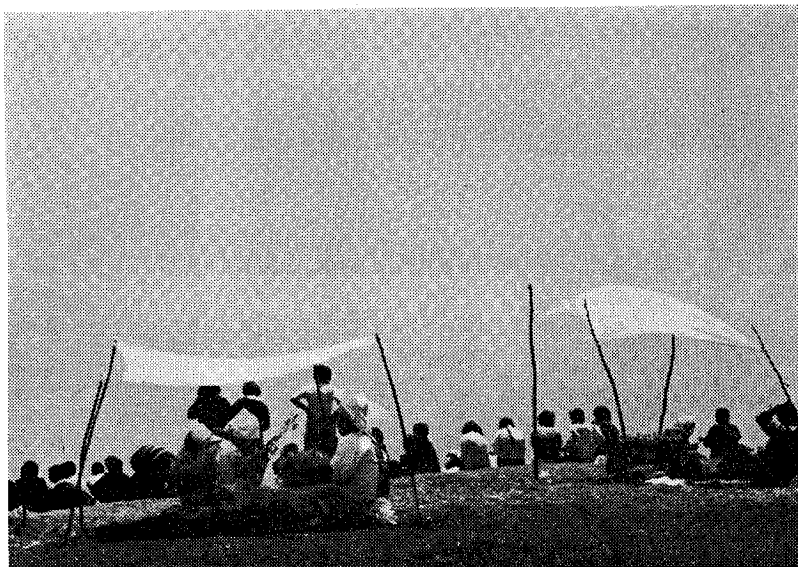
東京中央支部

四月二十九日、五月三日と横浜の建築を手伝いに行った中央支部の兄弟姉妹は五日、五月晴れの青空のもと、扇山にハイキングに行った。当日は六時五十分新宿駅六番ホームに集合し、遅れる人もなく全員出発。ただ弁当を持って来ない人が八人も居た(兄弟だけ)。皆姉妹の温い愛に満ちた弁当に有付こうとして持って来なかったと思った。まったくけしからん？

中央線で約二時間、鳥沢と言う駅に着き。さあいよいよハイキング開始だ。皆思い通りの服装をしている。ジーパン、スカート、内には上下セビロで行く人も有り、多種多様でおもしろかった。特に姉妹の服装は赤、青、黄、白とまるで花園に花が咲いたようにきらびやかであった。これから歩いて一時間半で扇山の頂上に着く予定であった。所がどうコースを間違えたのか行けども行けども着かなかった。始めの一時間位は皆張り

切って歩調も速く活気に満ちた美歌などが飛び出て来た。また囲りの高山植物の花を眺めながら、新鮮な空気を胸一杯に吸って十分満足した顔であった。途中、中腹まで行くと後方に富士の拡大な裾野が見えた。田子の浦にうち出て見れば白砂の富士の高嶺に雪は降りつつ、と言う山部赤人の歌を思い出した。ここは田子の浦ではないが、遙か向こうを見わたすと、真白な富士の高嶺に雪が降り積っていた。

ここで私は昔の事を想い出し一人笑いが込み上げて来た。その昔話は私が高校時代、クラスで八ヶ岳に寮生活に行った時、私は常も富士は真白な物だと考えていたので、友人が某山を見てあれは富士では有りませんかと私に問うて来た。私は自信に満ちてそうでは無いと答えた。しかしその自信も一瞬の内に木の葉が落ちるように吹き飛んでしまった。それはバサガールが左に見えますのは富士山でございませうと言ったからであった。その時、本当に赤面したのであった。しかし多くの人々は、大であれ少であれ、一年中雪に被わ



れて、神秘のベールで包まれた富士で有ってほしと思うであらう!! その雪化粧をした富士を見て、私はしばし呆然としていた。そしてその雄大さと荘厳さと神秘の虜となった。富士は日本一の山、いや世界一の山である。その富士を横手に見ながらまた足を速める。頂上は見える

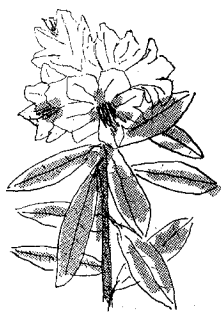
しかし行けども行けども着かない。山に登る時の格言として「頂上が見えたら下を向いて歩け」といった言葉がある。これは高い山になればなる程そうである。頂上五〇〇〜一〇〇メートルの所が、人間にとって一番きつい。そうそう姉妹たちがグチをこぼし始めた。その時ばかり兄弟はその荷物を持ち、いたわりの言葉をかける。中には足が痛いという姉妹も居た。おぶってやろう。兄弟たちは言った。本当に可笑ましい風景であった。兄弟姉妹の愛に溢れていて自然に頬が緩んで来た。しかし姉妹も恥しいのであらう。おぶってはもらわなかった。もっとも中には兄弟より重い姉妹も居たので、内心ははらしていた兄弟も多かった。ようやく頂上である。山に登る時は苦しいが、頂上に到達した時の喜びはまた口に表現出さない物がある。本当に空気は新鮮である。桜の花もそれに色を添えている。皆、本当に来て良かったと思ったであらう? ここからは南アルプスをはっきりと前方に見えた。皆想ったであらう何時かあの山の頂上に登ってやろう!! と。そして富士の裾野

に神殿が立てば良いと!!

さあ待ちに待った弁当の時間である。実に楽しい。弁当の無い兄弟に愛の手が差しのべられた。私もその内の一人であった。ほんとうにおいしかった。楽しい弁当の時間も終り、下山であった。ここでもまたコースを間違えた。今日のリーダーは天気が良すぎて頭に血が登ったのと違ったかな!! 四十五度の赤土の斜面を滑り降りた。姉妹は兄弟に捕っておっかな吃驚降りました。楽しい旅もようやく終着に近くなった。途中大野貯水地による。都会の泥水を眺めて来た私たちにあって青々とした水

は、心に潤を与えてくれた。ここで記念写真を取る。本当に楽しかった。そして私たちはここで改めて、キリストの「いつまでも存続するものは信仰と希望と愛で有る。この内で最も大きなものは愛である」と言った言葉を想い出すであらう。

もう夜中の二時、今頃兄弟姉妹は今日の楽しかった日々を夢の中で想い出し笑っている事であらう? 疲れて夢など見ないかもしれない。私もそろそろ寝る事にしよう。そして明日からまた地に付いた信仰の基、一步一步前進しよう。



バプテスマおめでとう
ございます

一九六六年四月

阿倍野 アンドウ マサコ
広島 カガワ ユキコ
カタノ ユキエ
京都 カンイン タケヒロ
名古屋 イシサカ カズオ
ヤマシタ チカヒコ
ヤマダ マサフミ
ホッタ タカヒコ
エグチ ヒロコ
セノ マキコ
岡山 ノズミ ハルコ
東京中央 タガワ ヤスコ
LEE-Chin, Chin
東京西 イシワタリ タカコ
イシハラ レイコ
横浜 ナカムラ エミコ
旭川 オグラ トクヒロ
甲府 タカハシ メグミ
キョウシマ マサコ
松本 モモセ クミコ
新潟 ウメカワ キンジ
オオシマ マサクニ

岡町 コタニ ジュンヤ
コバタケ アツミ
タジマ キョエ
カマモト トクオ
カワグチ キョウコ
東京東 ミツイ キン
イマイズミ ケンジ
モリタ シンジ
山形 カイトウ サダオ
神権昇進おめでとう
ございます

東京東 シゲヤマ ヨシオ (長)
ホリグチ ツグミチ (執)
東京中央 ソノダ ケンジ (祭)
東京北 シンバ ヒデオ (祭)
シカダ タダオ (執)
東京西 イノウエ テルオ (執)
東京南 ハラ タカシ (祭)
イトカヅ テツオ (祭)
イガラシ カツヒコ (教)
ヨネザワ タダヨシ (教)
ミウラ アキオ (執)
那覇 カネシマ カツノリ (執)
タマシロ タケカワ (執)
新潟 オオシマ ユタカ (執)
岡町 オカムラ イサオ (執)

岡山 ヤスイ シユウサク (執)
札幌 ハセベ コオイチロウ (祭)
タカクワ ハルノブ (祭)
バプテスマおめでとう
ございます
一九六六年五月

福岡 ヨシザワ カホ
群馬 カワハラ リョウイチ
マスダ ヒロシ
トダ ヒロコ
広島 カガワ ユキコ
カタノ ユキエ
甲府 ハギハラ ヨウコ
コバヤシ ミチコ
シミズ ユキヨ
京都 ホウジョウ トキコ
マキノ ショウゾウ
新潟 ウメカワ キンジ
岡町 コバヤシ ヒロコ
ニシゲチ クミコ
ワタナベ ヨウコ
ヤマダ スエキ
横浜 イイジマ トオル
ナカムラ エミコ
ヤマオカ カズヒコ
三宮 イノウエ ヒロコ
ナンジョウ ノブコ

仙台 アベ タツヤ
エンドウ ミチヨシ
サトウ フサコ
スガワラ ハルオ
ウチムラ ヨシコ
東京中央 キムラ ミオコ
オシゲ ヒサイシ
トムラ ノブカツ
東京東 ヒライ ミチコ
サカノ ジンイチロウ
東京北 ハシダ ミノル
モリナガ ジュン
ウエキ ケンジ
ヨコセ ヒロコ

東京西 イガラシ コウイチ
カガミ ミツユキ
カゲヤマ マサヒト
ワタナベ ヨシアキ
名古屋 ホンジョウ ハヤコ
トミイタ ハナコ
ナカシマ ハツオ
神権昇進おめでとう
ございます
旭川 アリサワ ヨシヤス (長)
群馬 トモマツ (執)
広島 スミヨシ オサム (長)
京都 ヨコヤマ シンジ (執)

室蘭 ハナヤ ヒロシ
モトムラ ヒロフミ
名古屋 フクヤマ テルオ
ホッタ トオル (長)
那覇 Utsaki Chokaho (執)
新潟 ウメカワ キンジ (執)
ヤマシタ チカヒコ (執)
西宮 アクツ ヨシノブ (長)
岡町 クニシゲ (執)
マキノ ショウゾウ (執)
ヨダワラ キヨカズ (執)

岡山 カノウ ヨシカズ (長)
小樽 ヨシダ ユキオ (執)
札幌 ヤマダ ヤスヒコ (教)
東京中央 マツダ シンジ (教)
ナカタ ヨシユキ (祭)
オガサワラ カツトシ (教)
東京東 フジサキ カンジ (教)
イマイズミ ケンジ (執)
オヌマ タカユキ (執)
東京西 イノウエ リュウイチ (教)
マチダ エイゾウ (執)
モリ サトオ (執)
ワカバヤシ ハジメ (祭)
山形 ワタナベ イサム (執)

ミューチュアル・スタディーについて

島 田 邦 男 (伝道部YMMIA副会長)

扶助協会と云うと比較的年輪の沢山ある人たちが出席し、MIAには比較的若い人たちが出席するのだと云う観念があります。しかし、扶助協会には十八才以上の女性、MIAには十二才以上の人たちが出席するはずであります。しかし、現実には単に、忙しいと云う理由のみにてなく、出席してもつまらないと云う事で、特にMIAにあっては、お年を召した方の出席状態は、はなはだしく悪いのであります。

MIAとは、相互発達協会と云う意味で、別に若い人たちの集まりと云うことではありません。

確かに今日まで本伝道部のMIAではエンサインのローレル(十二・十七才)とMメン・グリーンナー(十八才・二十六才)の二つのクラスしかありませんでした。老いた子に教えられ、と云う諺がありますように、MIAの発展をみるためには、どうしても比較的年を召して人生経験の豊かな人の出席が望まれる訳です。

そこで、本伝道部MIAに於きましては来年度(今年の九月)より、ミューチュアル・スタディーのクラスを開設し、兄弟姉妹の御協力をお願いする次第であります。

ミューチュアル・スタディーとは、比較的若くない兄弟姉妹がMIAに集まり、団結し、あらゆる部門から、多くの事を

学び、豊かな人生を送れる様に計画されてあります。そして、若い人たちを見守り、忠告をし、良い影響を与えます。また、伝道活動にも、何んらかの力となり不活発会員を活発にし、自分の自らの信仰、証詞を増し、肉体的にも精神的にも良く進歩し、良き父であり、良き母であり、全ての人の良き指導者を、養成する一つの機関と考えてもよいでしょう。

組織と責任

一、支部責任者

イ、ミューチュアルスタディーを管理する

ロ、ミューチュアルスタディーを司会する

ハ、毎週MIAの祈禱会に出席する

ニ、地方部の指導者会に出席する

二、クラス教師

イ、レッスンテーマに就て教える

三、クラス議長

イ、特別行事を計画し、指導する

ロ、支部責任者を援け、活動計画を作る

四、書記

イ、記録をとる

ロ、出席簿を作る

五、ミューチュアル・スタディーコミッテ

イ

イ、会員数を増す

ロ、会員の団結をはかり、フェローシ

ップを増す

ハ、計画会に出席する
ニ、伝道活動を援ける

内 容

A レッスンの紹介

- 1 テーマレッスン
- 2 読書課程
- 3 家庭関係
- 4 教会の歴史
- 5 教会の教義
- 6 一般の歴史
- 7 政治
- 8 世界の宗教
- 9 世界の地理と文化
- 10 今日に於ける世界の科学
- 11 芸術
- 12 教会の指導者の生涯

B 文化的活動の紹介

- 1 ダンスをしましょう
- 2 音楽の夕べ
- 3 演説の夕べ
- 4 演劇の夕べ
- 5 読書をしましょう

C 特別行事の紹介

- 1 新年パーティー
- 2 パースデー・パーティー
- 3 食事パーティー
- 4 観劇会
- 5 ボーリング
- 6 両親と青年の集い
- 7 系図探求
- 8 外部の人を招待し、話を聞いたり討論をする

註

- 一、この会に出席すべき人は、二十七才以上の会員、または既婚者
 - 二、支部MIAの一般活動の時はこの会を中止し、一般活動に出席する
- 詳細は来年度MIAカレンダーを参照して下さい。

私たちの天父は正しい方です

家族のタペテキスト第9課つづき

「サンドラ、お前は何と言うことをしたんだね、お前はごまかすことは悪いということを知っているでしょう。前にその事に就て話したことがあったはずだ。それにもかかわらずお前はまだつづけている。お前の先生はお前は六年生であるのに数学では二年生の標準しかないと言われた。サンドラ、ごまかすことは一番悪いくせだとお父さんは思うよ。さあどうしたらよいんだ？」

サンドラは答えようもなく泣き出してしまいました。お父さんは続けました。

「ハドリー先生は只知らせるためにだけ電話したのではない。彼女は私たちに助けてもらいたいと言われたのだ。お父さんは出来るだけお前のお手伝をしてあげたい。だけどお前の代りに数学を学ぶことは出来ないよ。お前自身がそれをものにしなければいけないだよ」「だけど私数学はさっぱりわからないんだもの」サンドラはすすり泣きました。

「お前は出来るんだよ、お前はよい心を持っているんだ。それはむずかしいかも知れないよ。だけどやれば出来るんだ。毎日

学校が終わったらすぐ帰って来て先生に出された宿題をしなさい。夕食後お父さんがそれをなおしてあげる。またわからない処があったら教えてあげるよ。先生が数学をどのようにしたらよいかお父さんにも示してくれるだろう。さあ先生に、もうこれから決してごまかさない約束するだろうね。そしてきつと数学を追いつくとね」

サンドラはすっかりしよげてしまつて

「お父さん。私は出来ないわ。私は出来ないわ」と泣きながら答えました。お父さんは静かに「心配しないで、お父さんが手伝ってあげるからねサンドラ、お前一人で考えるのはまだ無理なんだよね」と慰めました。

サンドラは翌朝、重い足をひきづつて登校しました。サンドラにとっては友だちのベキーもごまかして見つかうていたので自分だけの問題でなかったことがせめてもの慰めでありました。けれども意外にもベキーは何事もなかったようにおしやべりし笑って居りました。休み時間にはサンドラはベキーにささやきました。

「貴方のお父さんはどう言った

の？」
ベキーは頭をふつて答えました。

「彼は私に何も言わなかったわよ。けれども私は彼がハドリー先生に彼は私が写したのをごまかしとは思わない、只私が賢しこ過ぎるんだと言っているのを聞いたわ。そして彼は女の子には数学などあまり必要ないんだと言ってるわよ、貴方のお父さんは何て言ったの？」

サンドラが彼女に告げるとベキーはためいきして言いました。「うちのお父さんはそんなお父さんでなくてほっとしたわ」

ハドリー先生はベキーとサンドラに学校が終わってから少し留るように頼みました。彼女は二人に宿題を出して、どのようにその問題をといたらよいか丁寧に説明しました。その宿題は翌朝提出せねばなりませんでした。

彼女たちが学校から出ようとした時、サンドラのお父さんが学校に立寄って、どのようにして助けたらよいかハドリー先生に聞いているのを見かけました。ベキーはサンドラに言いました。「貴方は気の毒だね、

私はこんな問題なんかほっとくわよ、私はレーニーと遊ぶわよ
彼女は私のために数分間で、してくれるんだから、彼女は問題が好きなんだから、どう貴方も家に帰る前に彼女にしてみたら」サンドラは答えました。
「若し私が出来ないことがわかったらお父さんに叱られるわ、でも不公平だわね」

サンドラは家に着くとすぐ自分の部屋にとちこもって問題を始めました。彼女が丁度問題を為し終った時にお父さんが夕食に呼びました。食べ終ってからお父さんは言いました。

「さあ静かなお前の部屋に行こう、そこで問題を手伝ってあげるから」

サンドラは問題を渡しながら言いました。

「みんな間違っているにきまつてるわ」そしてこらえきれなくなつて泣きながら叫びました。

「不公平だわ、お父さん、ベキーのお父さんはベキーに問題などさせないんだもの」

お父さんはサンドラを腕で取巻いて「お前に不公平と感じさせて悪かったね、けれどもお父さんはお前のために正しいと思うことをしているんだよ」

お父さんはサンドラと共に問題を一つづつといて彼女が理解するように辛抱強く助け、彼女の誤りを訂正してやりました。翌日も同様に過ごしました。

も数学の時間に話していることがわかつて来たら、やはり面白くなるものであります。彼女はもう数学で誰に対しても劣等感を感じないようにしました。彼女が友だちと同じように問題を理解することが出来ました。そこで彼女はお父さんに言いました。「お父さんはやっぱり正しかったわ私は数学を学ぶことが出来たんだわ、手伝ってくれて有難う」

「明日はお父さんは用事でリッヂビルに行かねばならないんだがね、土曜日で学校がないからお父さんと一諸に行かないか。そしてお父さんが用をたしている時にお前はヘレン伯母さんとジュリーを訪ねなさい。そして馬にも乗れるかも知れないから」

サンドラはとても信じられませんでした。彼女はこんなに待遇されるだけの価値のないことを知っていたからであります。

お父さんは何も彼女をつれて行かなくても彼女の弟をつれて行くことが出来たのです。サンドラは泣き出しそうになつてお父さんの首にすがつて叫びました。「おうお父さん、お父さんは私が好きなんでしょう。」

毎日お父さんと一緒に数学をしながら数ヶ月たった後サンドラは数学が好きになつて来ました。問題を解ける時にそれは面白くなるのであります。学校で

「討論」

サンドラのお父さんは彼女に對して公平で正しかったでしようか？ 貴方はどうしてわかりますか？

ベキーのお父さんは彼女に對して公平で正しかったでしようか？ 何故？

サンドラのお父さんが彼女に容易な道が正しい道だと思わせたら公正ではなかったでしよう。私たちの天父に於ても全く同様であります。何故私たちは永遠の生命を得ようと努めるのですか？（そこには私たちの想像出来ないほどの喜びと幸福を見出すからです）

永遠の生命を相続するには私たちは何をせねばならないでしようか？（私たちの天父の律法に従うことであります。それが私たちが彼の如くなる道であります。彼の持っている資質を私たち自身の内に成長させることであります）彼は正義のお方でありますから私たちが彼の律法に従ったかどうかによつて裁くのであります。

「神の律法に従ったかまたは従わなかったかその結果を示す聖句」

主は予言者ジョセフ・スミスを通して私たちに告げて居ります。

。そもそも創世の以前より天に於て定められた一つの變らざる律法ありて、あらゆる祝福はこれに基くなり。

すなわち、われら何にても神より祝福を受ける時は、この祝福の基く律法に従うによりて、然るなり。（教義と聖約一三〇・二〇、二二）

變らざる律法とは取消しまたは變更されない律法を意味することを説明しなさい。この聖句の意味を家族に説明しなさい。

祝福は天父の律法に従う結果もたらされるものであります。

新約聖書でこの事に就てパウロはローマ人にある文句を書いて居ります。（ローマ書二・六—

三）若しも家族の中に子供が居たら、これらの文句は大人のために書かれたものであると告げなさい。或言葉は誇大されて居りますがともかく貴方は彼らがパウロの意中を察することが出来ると思うでしよう。彼らが一生懸命聞いてパウロの言わんとする処をつかむかどうか見なさい。下記の通り少し省略した聖句の写しを各人に持たせると助けとなります。

- 六、神はおのおのに、そのわざにしたがって報いられる。
- 七、すなわち、一方では耐え忍んで善を行つて、光榮とほまれと朽ちぬものとを求める人に永遠のいのちが与えられ
- 八、他方では党派心をいだき、真理に従わないで不義に従う人に怒りと激しい憤りとが加えられる。
- 九、悪を行ふすべての人には、患難と苦惱とが与えられ
- 十、善を行ふすべての人には、光榮とほまれと平安とが与えられる。
- 十一、なぜなら、神には、かたより見ることがないからである。
- 十三、なぜなら、律法を聞く者が、神の前に義なるものでは

なく律法を行う者が義とされるからである。

質問しなさい。聖句の全体的な意味は何ですか？ 家族の小さな者から順に意見を述べさせなさい。パウロは私たちの天父が私たちに為すように求めたことを為す者は永遠の生命を相続することを意味したものであることを彼らがはっきりと理解するようにさせなさい。真理に従わないで悪を行う者には無念、苦痛及び苦悩を味わうでしょう。十一節は（もう一度読みなさい）私たちの天父はその子供たちを愛していないと云うわけではありません。それは彼が私たちすべてを愛し敬っていることを意味して居ります。彼は私たちが正しい限りかたより見ることはありません。私たちは彼が完全に公平、私たちに正しくあることに信頼出来るのであります。すべての人が行っただけのものを収獲するのであります。私たちが天父が正義のお方であるというのは、このことを云うのであります。（十二節及び九節と十節の後の部分は主題に関係ないから省略しました）二週間前のレッスンで天父が

天使を遣わした程愛されたアルマに就て語ったことを貴方は覚えていてでしょう。マルマは天父の誠命を守り始め、宣教師になりました。彼はその後生涯に亘つて他人に福音を教え、その民の間に在って偉大なる指導者となりました。彼はその息子たち一人々々に語り、神の誠命を守る事が如何に大切であるか告げました。息子の一人、コリアントンは、堅く天父の律法を守る事が出来ず伝道の務から退いて世の快樂を求めました。彼の父は彼が罪の道から戻るように、さもなければ永遠の生命の代りに、終りなきみじめさを受けるであろう。罪悪は決して幸福を生じたことはいないと言いました。

「神の律法を破つたための罰は神の正義であります」

コリアントンは私たちの天父が罪人を罰するのは正義でも公平でもないと感じました。家族にコリアントンの立場をどう思うか？ とたずねなさい。下記は貴方が家族を健全な結論に導く助けとなるかも知れません。お父さんが子供に熱いストーブに触れないように、若し触れるとやけどして痛いからと注意

したにもかかわらず子供は熱いストーブに触れてやけどし痛い思いをしました。彼がストーブに触れたためにやけどをし、それが痛いのを彼の父親が彼に対して不公平だと言えるでしょうか？ いいえそれは全く反対です。お父さんはストーブに触れぬ様警告したのであります。それはお父さんの公平と正義であります。彼はそのやけどを可愛そうに思うかも知れませんが、それで子供の痛みはいささかも減るものではありません。誰でも熱いストーブに触れたらやけどすると云う律法があるのであります。若しも彼がその律法を破ればその結果は痛いののであります。それは彼がその律法を破つた刑罰であります。

それですから私たちが如何なる天父の律法を破つてもその結果は痛いののであります。罪は痛みとみじめさと不幸をもたらすことは不変の法則であります。天父が彼の律法が何であるかを私たちに告げる時、私たちはそれに従い祝福と幸福を受けることが出来るのであります。彼は私たちに義と慈悲と愛を示すのであります。

貴方が熱いストーブに貴方の

手を置いても痛みを感じないとしたら若しまた貴方が何か悪いことをする前に苦痛の警告がなかったとしたら貴方の手は動かす前に癒らない程に焼けてしまふでしょう。如何なる悪い事をしても不幸な感じが伴わなかったら私たちは更に悪を続けるのであります。私たちの天父は義であり慈悲深いので私たちに痛みを感じさせるのであります。

私たちの天父の律法に従う人たちは最も幸福な人であることを強調しなさい。これは、後の永遠の生命の約束に加えて天父からのボーナスのようなものであります。彼は、汝らわが言うところを行わば、主なるわれこれに対して責任あり。されど、汝らわが言うところを行わずば汝ら何ら約束を受けず、（教義と聖約八二・一〇）と言って居ります。

「親の役目」

両親は下記のような考えを用いて、私たちの天父が彼の律法を親たちにその子供たちに説明して、それに従うように導く責任を与えたことを子供たちに伝えられるでしょう。お前のお母さん（お父さん）と私はお前が

幸福であることを望んでいるのだよ、私たちは幸福になる唯一の道は、私たちの天父の律法に従うことであるということを学んだのだよ、天父はお前に体を与えるためにだけ親をさすけたのではない。お前に天父の律法をわからせ、悪に入らないように責任をとるように教え、お前を助けるためにもさすけられたのです。

或ことは他のことより学ぶのが非常に困難です。お前は幼い間にもストーブに手を触れないように責任をとることを学ぶことが出来るでしょう。けれども或ことに就ては成長する迄私たちの助けを必要とするでしょう。

「家族は神の律法に従うために協力するでしょう」

家族の者にレッスン中に天父の正義が私たちの家族の上にとどのような効果を及ぼすか見出すように念をおしなさい。

今迄学んだことを要約しますと、神の永遠の律法があるというのであります。そして若し私たちが従わないならその結果は不幸になります。これは真実であります。何となれば私たちの天父は正義なお方であるから

■騒音と排気ガスで季節の移り変りを忘れてしまったような都会のなかでも、雨に濡れたプラタナスの葉が、ちよっぴり詩情を覚えさせてくれます。殺人的といわれている超満員の電車にゆられ、前を歩く人のクツを踏みそうな生活をしている、各地から寄せられる便りがなよりの情緒忘却回復済。今月は支部だよりの頁がおかげでいっぱいになりました。これからもどしどしニュースを送ってくださいように。(三)



であります。彼が若し彼の律法を破った人に対しても好意を以て報い、他方に於て彼の律法に従った人を罰するなら私たちは彼を信頼することが出来ません。彼の正義は私たちをして彼の律法に従うことが如何に大切であるかをわからせるのであります。若しも家族が皆大人であったら次の点に就て討論しなさい。私たちは天父の律法に当然な程従っているだろうか？若しも従っていないれば私たちは祝福を期待することが出来ません。何となれば神は正義なお方であるからであります。私たちの家庭の幸福は如何に影響されるでしょうか？

若し家族に小さな子供たちが居るなら彼らが天父の律法に従うように導きたいという貴方の大きな望みに就てまた彼らがそれを理解せずに、従わなかったら天父は貴方の責任を問うであろうということを心から彼らに話しなさい。

子供たちに貴方が彼らに対し公正でありたいと願っていることとまた貴方が貴方自身過ちをおかすことを認めていることを知らせなさい。また天父の律法に彼らが従うように導くには彼ら

の助けを必要とすることを。子供たちに貴方が天父から与えられた使命を達成出来るようにそしてそれが彼らの祝福となるように貴方のために祈るように頼みなさい。

貴方自身の方法を以て、子供たちに貴方が彼らに対する責任をどのように遂行しようとしているかに就て告げなさい。次の提案は貴方がどのように言ったらよいかその指示を与えるでしよう。

お前は正しいことをせねばならないわけがまだよくわからないから私たちが言う通りにしなさい。けれどもお前が天のお父様の或律法を理解出来るようになったら私たちはお前が自分でそれに従う決心をするように助けましよう。お前が何かしたいと頼む時、私たちは「お前はどうかしなければならぬ」と思いますか？」と尋ねるでしよう。お前は成長したら天のお父様の律法に従うことに就て自分で決定せねばならないのです。お前がそうすることを覚えるように助けるのが私たちの責任です。

家族の者に今週のために次のような計画をするように提案し

なさい。先ず貴方はお父さんお母さんのために祈ることを忘れないように。次に貴方が何かしたいと願う時、私が今したいと思っているこの事は天父の律法にかなっているだろうか？と自ら考えてごらんなさい。それから私たちの内どちらにでも（お父さんまたはお母さん）来て話しなさい。

子供たちの任務を掲示板に書くか大きな紙に書いて壁に貼っておくようにしなさい。

「子供の割当て」

一、お父さんお母さんが貴方を導いて天父の律法に従わせるように彼らのために祈りなさい。

二、貴方が何かしたいと願おうとする時、貴方自身に貴方が為そうとしている事が天父の律法にかなっているかどうかたずねなさい。それからお父さんまたはお母さんの処へ行つて話しなさい。

「両親のための割当て」

子供が何か頼みに来た時両親は、その要求を聞く前に「いいえ」と云う傾向があります。注意深く聞いてすべての事実を確かめるようにしなさい。そして子供が何を為すべきかと感じているかをくみとるようにしなさい。若しも彼が自身で決定して居れば彼はそれに従うのがよいと感じているのでしよう。けれども原則をまげて、貴方が悪いと思っていることを許すようなことのないようにしなさい。

子供たちが自分で賢明に決めることが出来ない時に貴方が彼らのために正しい決断をしてあげることを知らせなさい。

「成人のための割当て」

どのような決断をする時でも立止つて貴方自身にたずねなさい。これは天父の律法にかなっているだろうか？と。

「開会の祈り」

誰か年長の子供にお祈りさせるのが効果的であります。彼は次のように祈るべきです。

私たちの天父に彼がその子供たちに公正であることに感謝しお父さんお母さんが子供たちが皆天のお父様の律法に従うように導けるように彼らを祝福したまわんことを。

子供たちが正しい決断をしてお父さんお母さんに従うように祈りなさい。

図書案内

教義と聖約	上質革製合本	
高価なる真珠	モルモン経	一〇〇円
教義と聖約	合本	三〇〇円
高価なる真珠	モルモン経(新約)	三〇〇円
信仰箇条の研究		三三〇円
基督・イエス		三〇〇円
末日聖徒イエス・キリスト教会略史		一一〇円
モルモンとは(新版)		一五〇円
総合聖句の手引		一五〇円
メルケゼデク神権、教師と生徒用		二二〇円
モルモン経の読み方と手引		一五〇円
アロン神権者用学科課程		二二〇円
神の王国		一〇〇円
アロン神権者用手引		一〇〇円
アロン神権のなかの祭司		一八〇円
回復された神の教会		一〇〇円
神と人		二〇〇円
家庭に於ける神権の発揚		一五〇円
モルモン経の新研究		三三〇円
日本系図探求要覧		一一五円
扶助協会手引		一五〇円
求道者教育法		一二〇円
道は開ける		四五〇円

日曜学校用

モルモン経物語	一五〇円
旧約聖書物語	一五〇円
福音の実践	二〇〇円
我等の標準聖典	二〇〇円
古代の使徒	一五〇円
教義と聖約の教え	二〇〇円
福音の紹介	一〇〇円
完成への道	一〇〇円
宗教生活	一五〇円
奇しきみわざ上巻・下巻	各二〇〇円
家督権の祝福	一〇〇円
家族の昇栄	二〇〇円
シオン山の救い手たち	二〇〇円
レッスンの手引	六〇円
M I A 用	
M I A の手引	二二〇円
我らは信じる	二〇〇円
我らは生きる	二二〇円
我らは奉仕する(66年度テキスト)	一五〇円
素晴しき考え(66年度テキスト)	二〇〇円
生活の目標	一五〇円
今日の十誡	二五〇円

エンサインローレルの手引……………一五〇円
演説が上手になる法……………一五〇円

ロールブック

M I A ……………一〇〇円
扶助協会……………一〇〇円

讃美歌及び歌集

末日聖徒讃美歌集(新版)……………四〇〇円
リクリエーション歌集……………四〇〇円

その他ブックカバーなど

モルモン経カバー……………二〇〇円
教義と聖約カバー……………二〇〇円
合本カバー……………二〇〇円
信仰箇条の研究用カバー……………二〇〇円
聖餐カップ(一箱)……………二五〇円
聖餐クロス(一セット)……………三三〇円
ブレットトレイ……………一三七五円
ウオータートレイ……………二七五円
LDS バッジ……………一〇〇円

図書の購入は支部長会に申し出てください

聖徒の道は

私たちが真理を知る「てだて」であり

私たちの心と心がかよう道です

あなたの霊の進歩のために

あなたの信仰のかてのために

お役に立つ本であればと思います

支 部 所 在 地

北海道地方部

旭 川 旭川市8条5丁目
MIA集会所 旭川公会堂
電話 (2-1545)
室 蘭 室蘭市幸町 89
電話 (7054)
小 樽 小樽市富岡町 1ノ35
電話 (2-8224)
札幌 札幌市北2条西 24丁目
電話 (63-7866)

東中央地方部

群 馬 高崎市並榎町 275
電話 (2-7121)
甲 府 甲府市中央3丁目 12-2
松 本 松本市開智 1ノ1ノ6
新 潟 新潟市中大畑町 557
電話 (2-8660)
仙 台 仙台市光禅寺通り 28
電話 (25-0897)
東京中央 東京都港区青山北町 6ノ34
電話 (408-3307)
東京北 東京都中野区江原町 1ノ8ノ14
電話 (952-1531)
東京東 東京都江戸川区西小岩 5ノ8ノ6
電話 (657-5223)
東京南 東京都大田区南千束町 2-25-11
電話 (729-6311)
東京西 東京都武蔵野市吉祥寺東町 1ノ7ノ7
電話 (22-6764)
山 形 山形市七日町 4丁目 12ノ23
横 浜 横浜市港北区篠原町 29
電話 (49-8772)

西中央地方部

阿 倍 野 大阪市阿倍野区阪南町中 1ノ38
電話 (623-4315)
福 岡 福岡市浄水町 46
電話 (52-8653)
広 島 広島市古田町古江 400ノ3
電話 (31-6135)
金 沢 金沢市兼六元町 3ノ8
電話 (21-2131)
京 都 京都市左京区下鴨松原町 44
名 古 屋 名古屋市昭和区北山町 3ノ41
電話 (73-4210)
西 ノ 宮 兵庫県西ノ宮市仁川町 4ノ54
電話 (5-0141)
岡 町 大阪府豊中市岡町北 2ノ18
電話 (52-1236)
岡 山 岡山市学南町 1ノ13ノ11
三 ノ 宮 神戸市灘区篠原本町 4ノ35
電話 (86-2602)
柳 井 山口県柳井市今市 391

沖縄地方部

普 天 間 沖縄宜野湾市野嵩区 328
那 覇 沖縄那覇市崇元寺町 1-128-20
電話 (8-6568)

建築部事務所 東京都港区青山北町 6ノ34
電話 (402-4010)

(誤りのある支部の支部長はご一報ください)

聖徒の道

一九六六年七月一日発行

振替口座 東京一六二二六番

発行人兼編集人 アドニー・Y・小松

発行所

東京都港区南麻布五丁目八番十
末日聖徒イエス・キリスト教会

印刷所 株式会社三五堂

定価八十円

一年予約八百四十円(申込は支部長まで)